

構造特記仕様書		2016年度版																																																																												
§1 一般事項																																																																														
選択項目は◎印を適用し、◎印が無い場合は＊印を適用する。 ○印が複数ある場合は、共に適用する。																																																																														
1-1	使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。																																																																													
1-2	設計図書の優先順位は下記による。																																																																													
1)本特記仕様書																																																																														
2)設計図																																																																														
3)標準図																																																																														
◎鉄筋コンクリート構造配筋標準図 ◎鉄骨工作標準図 ●鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図 ●高強度せん断補強筋施工仕様書 ●鉄筋コンクリート壁式標準配筋図																																																																														
4)仕様書（ ◎公共建築協会 ＊日本建築家協会 ）																																																																														
5)日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6																																																																														
1-3	各二事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。																																																																													
1-4	構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。 第三者機関による検査・試験費用は工事費に（◎含む ●含まない）																																																																													
1-5	設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。																																																																													
1-6	梁貫通位置、径、及び箇所数は、●意図図 ●構造図 ◎設備図 による。																																																																													
1-7	その他																																																																													
§2 構造計算ルート																																																																														
2-1	<table><tr><th>方 向</th><th colspan="4">構造計算ルート</th></tr><tr><td>X</td><td>●ルート1</td><td>◎ルート2</td><td>●ルート3</td><td>●</td></tr><tr><td>Y</td><td>●ルート1</td><td>◎ルート2</td><td>●ルート3</td><td>●</td></tr></table>			方 向	構造計算ルート				X	●ルート1	◎ルート2	●ルート3	●	Y	●ルート1	◎ルート2	●ルート3	●																																																												
方 向	構造計算ルート																																																																													
X	●ルート1	◎ルート2	●ルート3	●																																																																										
Y	●ルート1	◎ルート2	●ルート3	●																																																																										
2-2	鉄筋の継手 構造計算ルート別による主筋又は、耐力筋の鉄筋の継手の重ね長さ ◎ 建築基準法施行令第73条（政令第73条第2項）による仕様規定 ● 日本建築学会 JASS5(2015)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説 ● 日本建築学会 RC規準2010 XY両方向共同ルート3及び限界耐力計算の場合は、政令第73条の仕様規定によらずJASS5(2015)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2010とすることができる。																																																																													
§3 仮設工事、土工事																																																																														
3-1	山留め、根切り																																																																													
3-2	塩尻土、留土、残土処分 塩尻土 ◎根切り土の中の良土 ●搬入良土 留土 ●根切り土の中の良土 ●搬入良土 残土処分 ●場内地均し ◎場外搬出処分 ◎自由 ●指定場所																																																																													
§4 地業工事																																																																														
4-1	基礎及びスラブ地業（単位mm） <table><tr><th colspan="2">場 所</th><th colspan="2">捨てコンクリート厚さ</th><th colspan="2">A：砕石</th><th colspan="2">B：砕石</th><th colspan="2">厚 さ</th></tr><tr><td rowspan="2">基礎</td><td>独立・布</td><td>＊50＊60</td><td>◎100</td><td>◎A</td><td>＊B</td><td>＊80＊100</td><td>◎150</td><td>●</td><td></td></tr><tr><td>ベ タ</td><td>＊50＊60</td><td>＊100</td><td>＊A</td><td>＊B</td><td>＊60＊100</td><td>＊150</td><td>●</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">地 中 梁</td><td>◎50＊60</td><td>＊100</td><td>◎A</td><td>＊B</td><td>＊80＊100</td><td>◎150</td><td>●</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">構造スラブ</td><td>＊50＊60</td><td>＊100</td><td>＊A</td><td>＊B</td><td>＊60＊100</td><td>＊150</td><td>●</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">土間スラブ</td><td>屋内</td><td>◎50＊60</td><td>＊100</td><td>＊A</td><td>＊B</td><td>＊80＊100</td><td>＊150</td><td>●</td><td></td></tr><tr><td>屋外</td><td>◎50＊60</td><td>＊100</td><td>◎A</td><td>＊B</td><td>＊60＊100</td><td>◎150</td><td>●</td><td></td></tr></table> 注（1）アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。 （2）端部aは100以上とする。  設計地耐力 長期 200 kN/m ² 短期 400 kN/m ² 終局 kN/m ² 地耐力載荷試験 ● 行う（ 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する） ＊ 行わない 4-3 地盤改良 ● 無筋コンクリート地業 ● 締固め工法 ◎ ソイルセメント杭 ● セメント系固化砂処理 ● 圧密排水工法 ● 〔 ● 載荷試験 ◎ 単圧縮試験 〕 ◎ 行う（3箇所） ＊ 行わない 〔 ● 六価クロム溶出試験 〕 1 ● 行う ＊ 行わない 4-4 既設コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭 1)杭種 ● PHC杭 ● A種 ● B種 ● C種 ● ● S 杭 ● A種 ● B種 ● C種 ● ● SC杭 t mm ● ● ● ● ● PRC杭 ● I 種 ● II種 ● III種 ● IV種 ● 節杭 ● A種 ● B種 ● C種 ● 2)工法 ● 打撃工法 ● 油圧ハンマー ● ディーゼルハンマー ● 垂込み工法 ● プンボーリングセメントミルク注入工法 ● プンボーリング拡大掘削工法（認定工法） 杭周固定液 ●あり ●なし ● 中継拡大掘削工法（認定工法） ● 回転掘設掘削工法（認定工法）			場 所		捨てコンクリート厚さ		A：砕石		B：砕石		厚 さ		基礎	独立・布	＊50＊60	◎100	◎A	＊B	＊80＊100	◎150	●		ベ タ	＊50＊60	＊100	＊A	＊B	＊60＊100	＊150	●		地 中 梁		◎50＊60	＊100	◎A	＊B	＊80＊100	◎150	●		構造スラブ		＊50＊60	＊100	＊A	＊B	＊60＊100	＊150	●		土間スラブ	屋内	◎50＊60	＊100	＊A	＊B	＊80＊100	＊150	●		屋外	◎50＊60	＊100	◎A	＊B	＊60＊100	◎150	●								
場 所		捨てコンクリート厚さ		A：砕石		B：砕石		厚 さ																																																																						
基礎	独立・布	＊50＊60	◎100	◎A	＊B	＊80＊100	◎150	●																																																																						
	ベ タ	＊50＊60	＊100	＊A	＊B	＊60＊100	＊150	●																																																																						
地 中 梁		◎50＊60	＊100	◎A	＊B	＊80＊100	◎150	●																																																																						
構造スラブ		＊50＊60	＊100	＊A	＊B	＊60＊100	＊150	●																																																																						
土間スラブ	屋内	◎50＊60	＊100	＊A	＊B	＊80＊100	＊150	●																																																																						
	屋外	◎50＊60	＊100	◎A	＊B	＊60＊100	◎150	●																																																																						
3)杭径、設計耐力、本数表																																																																														
<table><tr><th>杭径（拡底部）mm</th><th>長期kN</th><th>短期kN</th><th>終局kN</th><th>本数</th><th>備 考</th></tr><tr><td>（ ）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>（ ）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>（ ）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>（ ）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 4)杭の構成は設計図による。 5)杭補強筋 ● かご筋 ● スタッド溶接 ● 坑外周溶接 4-5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭 1)工法 ● アースドリル工法 ● 拡張アースドリル工法 ● リバース工法 ● オールケーシング工法（ ● ペノト工法 ● ） ● 閉工法 ● 2)杭径、設計耐力、本数表（拡底部は施工径を示す） <table><tr><th>杭径（拡底部）mm</th><th>管厚 mm</th><th>長期kN</th><th>短期kN</th><th>終局kN</th><th>本数</th><th>備 考</th></tr><tr><td>（ ）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>（ ）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>（ ）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>（ ）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 3)杭先端深さ 6L－m 4)孔壁測定（2方向） ● 行う（ ● 全数 ● % ） ● 行わない 5)使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。 コンクリート Fc（ ● 普通ポルトランドセメント ● 高炉セメントB種 ） 鉄筋 ● D 以下 SD295A ● D 以上 SD345 ● D 以上 SD390 鋼管（リブ付） ● SKK400 ● SKK490 4-6 杭打地業共通事項 1)〔 ● 杭長決定用先行杭 ● 試験杭 〕 ● 行う（ 本 ） ● 行わない 2)載荷試験 ◎ 行う（ 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する） ＊ 行わない 3)SL平布 ● 行う ＊ 行わない				杭径（拡底部）mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考	（ ）						（ ）						（ ）						（ ）						杭径（拡底部）mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考	（ ）							（ ）							（ ）							（ ）																
杭径（拡底部）mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考																																																																									
（ ）																																																																														
（ ）																																																																														
（ ）																																																																														
（ ）																																																																														
杭径（拡底部）mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考																																																																								
（ ）																																																																														
（ ）																																																																														
（ ）																																																																														
（ ）																																																																														
§5 鉄筋工事																																																																														
5-1 材種																																																																														
<table><tr><th>種 類</th><th>径</th><th>継 手</th></tr><tr><td>◎SD295A</td><td>D 16 以下</td><td>◎重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接</td></tr><tr><td>◎SD345</td><td>D 19 以上</td><td>●重ね継手 ◎溶接継手 ● 機械継手（ 級）</td></tr><tr><td>●SD390</td><td>D 以上</td><td>●溶接継手 ● 機械継手（ 級）</td></tr><tr><td>●SD490</td><td>D 以上</td><td>●溶接継手 ● 機械継手（ 級）</td></tr><tr><td>●溶接金網</td><td></td><td>●重ね継手</td></tr><tr><td rowspan="3">●高強度せん断補強筋</td><td>＊1275級</td><td>P</td><td rowspan="11">●重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接</td></tr><tr><td>＊785級</td><td>K</td></tr><tr><td>＊685級</td><td>UD UR</td></tr></table> 溶接継手 ◎ガス圧接 ●突き合せ溶接（D16以下は重ねアーク溶接でも可） 溶接部の検査（第三者機関による）外観検査全数 ● 抜取り検査 ● 引張り試験（JISZ3120） 1 検査ロットにつき ● 3本 ● 原則 柱・梁の径毎に3本 ◎ 超音波探傷試験（JISZ3062） ● 熱間押抜き試験 1 検査ロットにつき ◎ 30 箇所 ● ● 不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。 1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した溶接箇所の数で200箇所以内 5-3 梁貫通補強 補強筋は原則として工場製品（評定品）を使用する。 5-4 その他 基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ◎ ①一絞 ● ②地反力を受ける ● ③上載荷重が大きい場合 とする。 鉄筋の組立は適切な位置にスパーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。 コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。 コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。				種 類	径	継 手	◎SD295A	D 16 以下	◎重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接	◎SD345	D 19 以上	●重ね継手 ◎溶接継手 ● 機械継手（ 級）	●SD390	D 以上	●溶接継手 ● 機械継手（ 級）	●SD490	D 以上	●溶接継手 ● 機械継手（ 級）	●溶接金網		●重ね継手	●高強度せん断補強筋	＊1275級	P	●重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接	＊785級	K	＊685級	UD UR																																																	
種 類	径	継 手																																																																												
◎SD295A	D 16 以下	◎重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接																																																																												
◎SD345	D 19 以上	●重ね継手 ◎溶接継手 ● 機械継手（ 級）																																																																												
●SD390	D 以上	●溶接継手 ● 機械継手（ 級）																																																																												
●SD490	D 以上	●溶接継手 ● 機械継手（ 級）																																																																												
●溶接金網		●重ね継手																																																																												
●高強度せん断補強筋	＊1275級	P	●重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接																																																																											
	＊785級	K																																																																												
	＊685級	UD UR																																																																												
§6 コンクリート工事																																																																														
6-1 設計基準強度（N/mm ² ） 1)セメント ◎ 普通ポルトランドセメントJISR5210 ● 高炉セメントB種 ● 低熟ポルトランドセメントJISR6210 ● 2)粗骨材 ◎ 砂利 ◎ 砕石 ● 高炉スラグ骨材 ● 人工軽量骨材 ● 再生骨材 最大径（mm） ◎20 ◎25 ●40 3)躯体（使用区分は設計図の軸組図に示す） ● 普通コンクリート ● Fc18 ◎ Fc21 ● Fc24 ● Fc27 ● Fc30 ● Fc ● Fc ● 軽量コンクリート（ ● 1種 ● 2種 気乾単位容積質量 ＊18.5 ● ） ● LFc18 ● LFc21 ● LFc24 ● LFc27 ● LFc30 ● LFc																																																																														
4)土間コンクリート ◎ Fc21（ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする）																																																																														
5)捨てコンクリート ◎ Fc18																																																																														
6)防水押さえコンクリート ● Fc ● LFc（気乾単位容積質量 ＊18.5 ● ）																																																																														
7)かき上げコンクリート ● Fc ● LFc（気乾単位容積質量 ＊18.5 ● ）																																																																														
6-2 混和材 ◎E減水剤 ● 高性能AE 減水剤 ● 躯体防水材 ● 膨張材 注1.混和剤は所定の品質を確認するためにプラントの特性に応じたものを使用する。																																																																														
6-3																																																																														
<table><tr><th>箇 所</th><th>基礎、地中梁</th><th>スラブ</th><th>一 般</th><th>備 考</th></tr><tr><td>スランプ cm</td><td>15</td><td>15</td><td>18</td><td></td></tr><tr><td>水セメント比 %</td><td></td><td></td><td></td><td>60以下</td></tr><tr><td>単位水 kg m³</td><td></td><td></td><td></td><td>185以下</td></tr><tr><td>単位セメント kg m³</td><td></td><td></td><td></td><td>270以上</td></tr></table>				箇 所	基礎、地中梁	スラブ	一 般	備 考	スランプ cm	15	15	18		水セメント比 %				60以下	単位水 kg m ³				185以下	単位セメント kg m ³				270以上																																																		
箇 所	基礎、地中梁	スラブ	一 般	備 考																																																																										
スランプ cm	15	15	18																																																																											
水セメント比 %				60以下																																																																										
単位水 kg m ³				185以下																																																																										
単位セメント kg m ³				270以上																																																																										
6-4 試験（躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う） 1)骨材 〔 ◎ 塩分含有量 ◎ アルカリシリカ反応性 〕 ◎ 行う ● 行わない 2)フランシュコンクリート 〔 ◎ スランプ ◎ 空気量 〕 ◎ 行う ● 行わない 3)躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ◎ 行う ● 行わない 4)コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ◎ 行う ◎ 行わない 5)マスコンクリートのひび割れ照査（温度応力解析） ● 行う ◎ 行わない 6)単位水重量測定 ● 行う ◎ 行わない																																																																														
6-5 鋼合（補正値は工事費に含む） 計画供用期間の繰（ ）は耐久設計基準強度F _d ● 短期（18） ◎ 標準（24） ● 長期（30） ● 超長期（36） 鋼合管理強度 F _{cm} =Max（F _c 、F _d ）+S S=3～6 材齢28日の鋼合強度Fは下記の両式を満足するものとする。 F≥F _{cm} 1.73σ F≥0.85F _m 3σ																																																																														
6-6 せき板及び支柱の位置関係（普通ポルトランドセメントの場合） <table><tr><th rowspan="2">コンクリートの仕様による場合</th><th>基礎、梁側、柱、壁</th><th>スラブ下</th><th>梁 下</th></tr><tr><th>15℃以上 5℃以上 0℃以上</th><th>3 日 5 日 8 日</th><th>17 日 25 日 28 日</th></tr><tr><td>圧縮試験による場合</td><td>5N/mm²</td><td>0.85Fcまたは12N/mm²</td><td>設計強度</td></tr></table>				コンクリートの仕様による場合	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下	15℃以上 5℃以上 0℃以上	3 日 5 日 8 日	17 日 25 日 28 日	圧縮試験による場合	5N/mm ²	0.85Fcまたは12N/mm ²	設計強度																																																																
コンクリートの仕様による場合	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下																																																																											
	15℃以上 5℃以上 0℃以上	3 日 5 日 8 日	17 日 25 日 28 日																																																																											
圧縮試験による場合	5N/mm ²	0.85Fcまたは12N/mm ²	設計強度																																																																											
6-7 住宅性能表示 劣化等級 ● 等級2 ● 等級3 劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）2-7かぶり厚さ が変わる場合があるので注意すること。 Fc36を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書（JASS5等）による。																																																																														
6-8 Fc36を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書（JASS5等）による。																																																																														
§7 鉄骨工事																																																																														
7-1 材種及び使用箇所																																																																														
<table><tr><th>規 格 名 称</th><th>鋼 材 名</th><th>柱</th><th>梁</th><th>内 外 大 梁</th><th>スラ 梁</th><th>小 梁</th></tr><tr><td>一般構造用圧延鋼材</td><td>◎ SS400 ●</td><td>◎</td><td></td><td></td><td>◎</td><td>◎</td></tr><tr><td>溶接構造用圧延鋼材</td><td>● SM400A ● SM490A</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">建築構造用圧延鋼材</td><td>● SM400A ● SM490B</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>● SM400C ◎ SM490C</td><td>◎</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>一般構造用角形鋼管</td><td>◎ STKR400 ● STKR490</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr><tr><td rowspan="2">冷間成形角形鋼管</td><td>● BCR295 ● BCP235 ● BCP325</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>● SHC400B ● SHC400C ● SHC490B ● SHC490C</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>一般構造用炭素鋼板</td><td>◎ STK400 ● STK490</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>一般構造用軽鋼形鋼</td><td>◎ SSC400 ●</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td></tr><tr><td>建築構造用圧延鋼板</td><td>◎ SMR400 ●</td><td></td><td></td><td></td><td>◎</td><td></td></tr></table>				規 格 名 称	鋼 材 名	柱	梁	内 外 大 梁	スラ 梁	小 梁	一般構造用圧延鋼材	◎ SS400 ●	◎			◎	◎	溶接構造用圧延鋼材	● SM400A ● SM490A						建築構造用圧延鋼材	● SM400A ● SM490B						● SM400C ◎ SM490C	◎					一般構造用角形鋼管	◎ STKR400 ● STKR490					◎	冷間成形角形鋼管	● BCR295 ● BCP235 ● BCP325						● SHC400B ● SHC400C ● SHC490B ● SHC490C						一般構造用炭素鋼板	◎ STK400 ● STK490						一般構造用軽鋼形鋼	◎ SSC400 ●					◎	建築構造用圧延鋼板	◎ SMR400 ●				◎	
規 格 名 称	鋼 材 名	柱	梁	内 外 大 梁	スラ 梁	小 梁																																																																								
一般構造用圧延鋼材	◎ SS400 ●	◎			◎	◎																																																																								
溶接構造用圧延鋼材	● SM400A ● SM490A																																																																													
建築構造用圧延鋼材	● SM400A ● SM490B																																																																													
	● SM400C ◎ SM490C	◎																																																																												
一般構造用角形鋼管	◎ STKR400 ● STKR490					◎																																																																								
冷間成形角形鋼管	● BCR295 ● BCP235 ● BCP325																																																																													
	● SHC400B ● SHC400C ● SHC490B ● SHC490C																																																																													
一般構造用炭素鋼板	◎ STK400 ● STK490																																																																													
一般構造用軽鋼形鋼	◎ SSC400 ●					◎																																																																								
建築構造用圧延鋼板	◎ SMR400 ●				◎																																																																									
7-2 高力ボルト <table><tr><th colspan="2">高 力 ボ ル ト の 種 別</th><th>使用 箇 所</th></tr><tr><td>トルシア形高力ボルト</td><td>◎ S10T</td><td>全般</td></tr><tr><td>JIS形高力ボルト</td><td>◎ F10T</td><td>トルシア形が使用できない部分</td></tr><tr><td>溶接垂鉛メッキ高力ボルト</td><td>◎ F8T</td><td>母材が亜鉛メッキされている部分</td></tr><tr><td>超高力ボルト</td><td>● S14T</td><td>屋内環境</td></tr></table> 7-3 普通ボルト、アンカーボルト 1) 材質 ◎ SS400 ● SS490（N以上） ● ABR400 ● ABR490 ● ABM400 ● ABM490（ABMはM24以上） 2) 大臣認定柱脚（メーカー仕様による） ◎ 使用する ● 使用しない 鋼付きスタック ベースバック				高 力 ボ ル ト の 種 別		使用 箇 所	トルシア形高力ボルト	◎ S10T	全般	JIS形高力ボルト	◎ F10T	トルシア形が使用できない部分	溶接垂鉛メッキ高力ボルト	◎ F8T	母材が亜鉛メッキされている部分	超高力ボルト	● S14T	屋内環境																																																												
高 力 ボ ル ト の 種 別		使用 箇 所																																																																												
トルシア形高力ボルト	◎ S10T	全般																																																																												
JIS形高力ボルト	◎ F10T	トルシア形が使用できない部分																																																																												
溶接垂鉛メッキ高力ボルト	◎ F8T	母材が亜鉛メッキされている部分																																																																												
超高力ボルト	● S14T	屋内環境																																																																												
7-4																																																																														
<table><tr><th>径</th><th>長 さ（mm）</th><th>使 用 箇 所</th></tr><tr><td>16 φ</td><td>● 90 ● 100 ● 120 ● 160 ●</td><td></td></tr><tr><td>19 φ</td><td>● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●</td><td></td></tr><tr><td>22 φ</td><td>● 100 ● 120 ● 160 ● ●</td><td></td></tr></table>				径	長 さ（mm）	使 用 箇 所	16 φ	● 90 ● 100 ● 120 ● 160 ●		19 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●		22 φ	● 100 ● 120 ● 160 ● ●																																																																
径	長 さ（mm）	使 用 箇 所																																																																												
16 φ	● 90 ● 100 ● 120 ● 160 ●																																																																													
19 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●																																																																													
22 φ	● 100 ● 120 ● 160 ● ●																																																																													
7-5 溶接材料 1)アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。 2)ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。 7-6 スクラップ形状 ◎スクラップ工法 ● ノンスクラップ工法 7-7 継手 <table><tr><th colspan="2">柱</th><th colspan="2">梁</th></tr><tr><td>フランジ</td><td>● 高力ボルト ● 現場溶接 ◎ 高力ボルト ● 現場溶接</td><td></td><td></td></tr><tr><td>ウェブ</td><td>● 高力ボルト ● 現場溶接 ◎ 高力ボルト ● 現場溶接</td><td></td><td></td></tr></table>				柱		梁		フランジ	● 高力ボルト ● 現場溶接 ◎ 高力ボルト ● 現場溶接			ウェブ	● 高力ボルト ● 現場溶接 ◎ 高力ボルト ● 現場溶接																																																																	
柱		梁																																																																												
フランジ	● 高力ボルト ● 現場溶接 ◎ 高力ボルト ● 現場溶接																																																																													
ウェブ	● 高力ボルト ● 現場溶接 ◎ 高力ボルト ● 現場溶接																																																																													
7-8 溶接手法及び管理 1) 使用する溶接ワイヤ●、入熱量及びバス温度等の仕様については鉄建協又は全機協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。 2) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技能検定付加試験を ● 行う ＊ 行わない 3) AM認定（工場・現場・代替タブ）の有資格者で、係員の承認を受けた者は技能者検定付加試験を免除する。 7-9 デッキプレート（単位 mm） 特記仕様書および、詳細図参照 1) 床用 両面 ● 板厚 ● 2) 合成スラブ用 両面 ● 板厚 ● 3) 壁持用 両面 ● 板厚 ● 形板 ● タイプ 4) 防錆処理 ● ブライマー ● 亜鉛メッキ ● Z12 ● Z27 7-10 錆止め塗装（工場※ ◎2回 ● 1回、現場タッチアップ程度とする） 1) 素地こしらえ ◎ケレン ● プラスト 2) 錆止めの塗料																																																																														
<table><tr><th>適用</th><th>塗 料</th><th>種 別</th><th>標準膜厚</th></tr><tr><td>屋外・室内</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>＊ ◎</td><td>鉛、クロムフリー錆止め</td><td>JISK5674</td><td>1種 30 μm</td></tr><tr><td>●</td><td>一般用錆止めペイント</td><td>JISK5621</td><td>● 1種 ● 2種 35 μm</td></tr><tr><td>●</td><td>ジンクリッチプライマー</td><td>JISK5552</td><td>● 1種 ● 2種 15 μm</td></tr><tr><td>●</td><td>シアミッド鉛錆止めペイント</td><td>JISK5625</td><td>● 1種 ● 2種 35 μm</td></tr></table> 3) 溶融亜鉛メッキ ● 行う ◎ 行わない 4) 常溫亜鉛メッキ ● 行う ◎ 行わない 7-11 溶接部の検査（受入検査） ◎ 行う ● 行わない 1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築業、設計者、工事監理者又は工事施工者（元請）との直接契約による。 2) 第三者検査機関は（社）日本溶接協会によるOIR検査事業承認種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。 3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。 4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2007 付則」、鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。 5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規程・同解説」2008により、合格判定は7.2.1便劣を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。 6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2007」表5.1溶接箇所数の数え方による。 7) 受入検査の採取方法及び採取率は以下による。 ※採取率は30%以上とする。 a) 工場溶接の場合 i. 検査ロットは各部、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。 ii. 採取率は検査ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。 iii. サンプリングの結果、不合格率が5%以内の場合はロットを合格とし、不合格率が5%を超えた場合は更に同一ロットの中から30箇所をサンプリングし、合計60箇所の不合格率が5%以内の場合を合格とする。不合格率が5%を超えた場合は残り全数の検査を行う。 b) 現場溶接の場合 ※溶接部の外観検査は100%とする。 i. 全数検査とする。 ※完全溶け込み溶接部の食い違い検査は100%とする。 8) 検査により不合格と判定された溶接率はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。 9) ずれ、食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」等を参考にする。 7-12 鉄骨製作工場 <table><tr><th colspan="6">国土交通省大臣認定（グレード）</th></tr><tr><td>S</td><td>H</td><td>(M)</td><td>R</td><td>J</td><td></td></tr></table>				適用	塗 料	種 別	標準膜厚	屋外・室内				＊ ◎	鉛、クロムフリー錆止め	JISK5674	1種 30 μm	●	一般用錆止めペイント	JISK5621	● 1種 ● 2種 35 μm	●	ジンクリッチプライマー	JISK5552	● 1種 ● 2種 15 μm	●	シアミッド鉛錆止めペイント	JISK5625	● 1種 ● 2種 35 μm	国土交通省大臣認定（グレード）						S	H	(M)	R	J																																								
適用	塗 料	種 別	標準膜厚																																																																											
屋外・室内																																																																														
＊ ◎	鉛、クロムフリー錆止め	JISK5674	1種 30 μm																																																																											
●	一般用錆止めペイント	JISK5621	● 1種 ● 2種 35 μm																																																																											
●	ジンクリッチプライマー	JISK5552	● 1種 ● 2種 15 μm																																																																											
●	シアミッド鉛錆止めペイント	JISK5625	● 1種 ● 2種 35 μm																																																																											
国土交通省大臣認定（グレード）																																																																														
S	H	(M)	R	J																																																																										
§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事																																																																														
8-1 コンクリートブロック 1)種類 ● A 種 ● B 種 ● C 種 2)厚さ mm ● 100 ● 120 ● 150 ● 190																																																																														
8-2 ALC パネル 1)使用箇所 ● 床 ● 屋根 ● 外壁 ● 内壁 2)厚さ mm ● 75（80） ● 100 ● 120 ● 150 ● 175 3)外壁取付付機構																																																																														
<table><tr><th>方 向</th><th>構 法</th><th>使 用 箇 所</th><th>備 考</th></tr><tr><td rowspan="2">縦</td><td>● スライド構法</td><td></td><td></td></tr><tr><td>● ロッキング構法</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">横</td><td>● カバープレート構法</td><td></td><td></td></tr><tr><td>● ボルト止め構法</td><td></td><td></td></tr></table>				方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考	縦	● スライド構法			● ロッキング構法			横	● カバープレート構法			● ボルト止め構法																																																											
方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考																																																																											
縦	● スライド構法																																																																													
	● ロッキング構法																																																																													
横	● カバープレート構法																																																																													
	● ボルト止め構法																																																																													
8-3 押出成形セメント板 外壁取付構法及び厚さ mm ● ●																																																																														
<table><tr><th>方 向</th><th>構 法</th><th>使 用 箇 所</th><th>備 考</th></tr><tr><td rowspan="2">縦</td><td>● スライド構法</td><td></td><td></td></tr><tr><td>● ロッキング構法</td><td></td><td></td></tr></table>				方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考	縦	● スライド構法			● ロッキング構法																																																																		
方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考																																																																											
縦	● スライド構法																																																																													
	● ロッキング構法																																																																													
8-4 PCa板 1)床及び屋根 ● 床 ● 屋根 ● PCa板単独 厚さ mm ● ● 合成板 <table><tr><th>PCa板厚さ mm</th><th>現場打厚さ mm</th><th>合計厚さ mm</th><th>備 考</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 2)外壁 厚さ mm ● ●				PCa板厚さ mm	現場打厚さ mm	合計厚さ mm	備 考																																																																							
PCa板厚さ mm	現場打厚さ mm	合計厚さ mm	備 考																																																																											

（販売元）一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会

http://fssm-net.jp

（発行元）一般社団法人関西建築構造設計事務所協会

TEL(06)6763-8205

FAX(06)6763-8206

http://www.ksc-net.com/

2016年2月1日作成

（不許複製）

TITLE 京丹波町映画等ロケ地倉庫新築 工事設計図		DATE 2017年3月	COA 有限会社 コア建築事務所		NO. 28
NAME 構造特記仕様書（1）		SCALE /	CHECK	PLAN	DRW
					S-01

構造担当者（有）シー・アンド・シー事務所 前田 隆夫（一級建築士登録 第116581号・構造設計一級建築士 第7036号）

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１） 2016年度版

1-1
基本事項

1-2
その他

§ 1 一般事項

1. 使用材料、工法等は構造特記図書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に使うものとする。
また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書 1-2-4 に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5（2015）」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、d は呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべて mm とする。

2-1
鉄筋の表示記号

2-2
鉄筋の折り曲げ

2-3
鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

§ 2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最小径は下表による。

記号	●	×	◇	●	○	◎	⊗	⊙	◆	※	
呼び径 d	D10	D13	D15	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最小径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

○ フックのない場合
○ フックのある場合
○ 本数に差がある場合
○ 機械式継手表示
○ 溶接継手表示
(ガス圧接、突き合せ溶接)

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内径 (D)
180°		余長 4d 以上	柱・梁主筋 基礎主筋 等筋 あばら筋 スライラ筋 等筋	SD295 SD345 SD390 SD490	3d 以上 4d 以上 5d 以上 5d 以上
135°		余長 6d 以上			
90°		余長 8d 以上			

鉄筋の種類

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm ²)	重ね継手の長さ		定着の長さ	
		上端 長さ L _u 下端 フック付き L _{ld}	上端 長さ L _u 下端 フック付き L _{ld}	小梁・床スラブ 上端筋 長さ L _u 下端筋 長さ L _{ld}	下端筋 長さ L _{ld}
SD295 SD345 (d ≤ SD345 表示)	18	45d (50d) 35d	40d 30d	15d (20d)	L _u = 20d L _{ld} = 10d かつ 150 以上
	21	40d (45d) 30d	35d (35d) 25d	15d (20d)	
	24~27	35d (40d) 25d (30d)	30d (35d) 20d (25d)	15d (20d)	
	30~36	30d (35d) 25d	25d (30d) 20d	15d (20d)	
SD390 (SD490) (-) は適用	21	50d (-) 35d (-)	40d (-) 30d (-)	20d (-)	SD490 は適用
	24~27	45d (55d) 35d (45d)	40d (45d) 30d (35d)	15d (-)	
	30~36	40d (50d) 30d (35d)	35d (40d) 25d (30d)	15d (-)	
	39~45	40d (45d) 30d (35d)	35d (40d) 25d (30d)	15d (-)	

一般定着の直線 L_a またはフック付きの L_{zh}, L_a, L_b の図

1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きの L_{zh} は仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3 の数値に 5d を加算する。

2-4
継手一般

2-5
鉄筋のフック

2-6
鉄筋のあき

2-7
かぶり厚さ

3-1
主筋の継手

3-2
主筋の定着

3-3
帯筋副帯筋

3-4
補助筋

3-5
柱のコンファインド補強

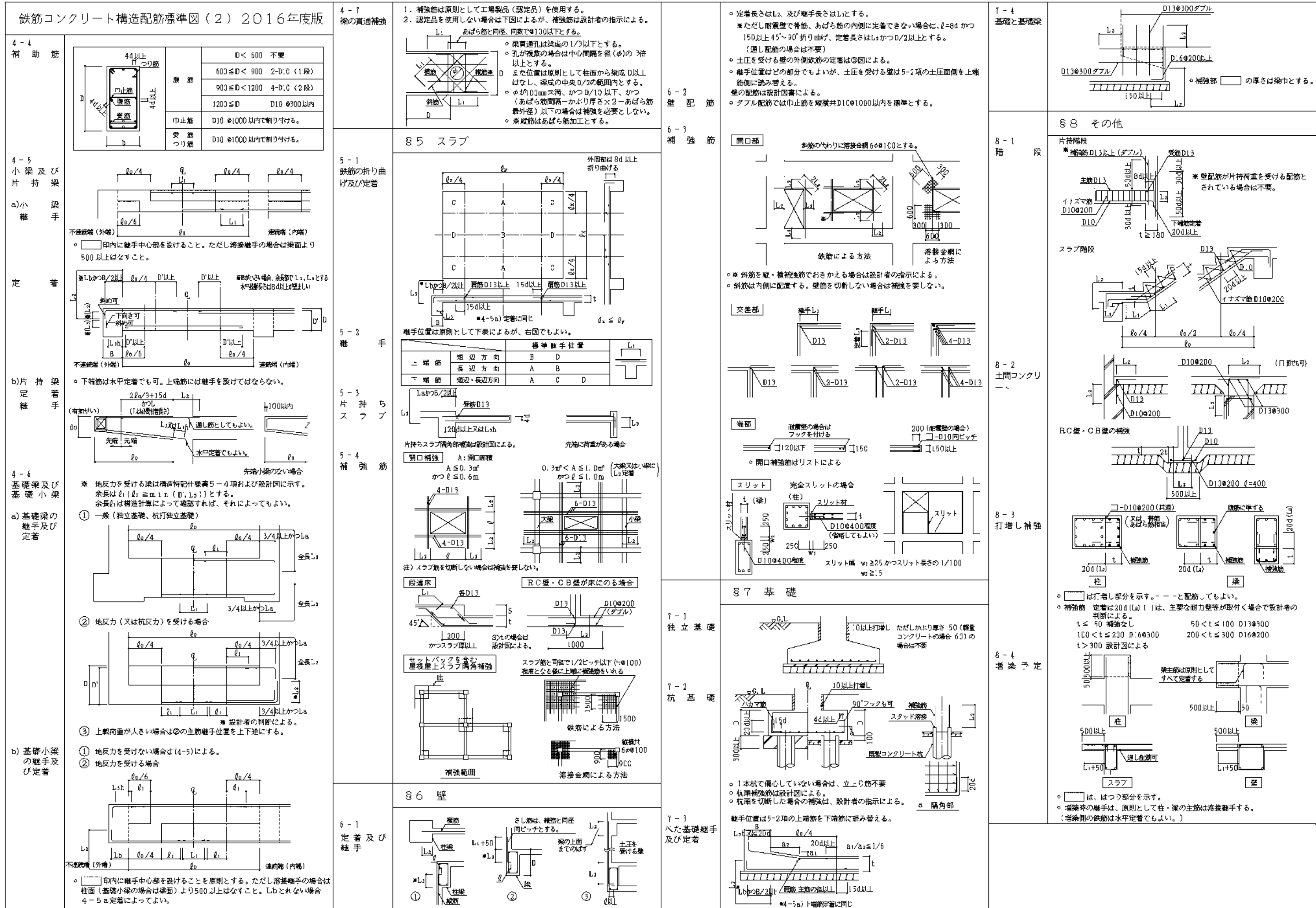
4-1
主筋の継手

4-2
主筋の定着及び余長

4-3
あばら筋副あばら筋

(販売元) 一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会 <http://fasa-net.jp> (発行元) 一般社団法人関西建築構造設計事務所協会 <http://www.ksae-web.com/> 2016年2月1日版 (不許複製)

TITLE	京丹波町映画等ロケ地倉庫新築 工事設計図	DATE	2017年3月	COA 有限会社 コア建築事務所	NO.	30
NAME	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	SCALE	/	CHECK	PLAN	DRW
構造担当者（有）シー・アンド・シー事務所 前田 隆夫（一級建築士登録 第116581号・構造設計一級建築士 第7036号）					S-03	



6-2 壁配筋

6-3 補強筋

7-4 基礎と基礎梁

8-1 階段

8-2 土間コンクリート

8-3 打増し補強

8-4 増築予定

8-5 その他

9-7 基礎

10-1 独立基礎

10-2 杭基礎

10-3 べた基礎継手及び定着

11-6 壁

12-1 定着及び継手

13-1 独立基礎

13-2 杭基礎

13-3 べた基礎継手及び定着

14-6 壁

15-1 定着及び継手

16-1 定着及び継手

17-1 独立基礎

17-2 杭基礎

17-3 べた基礎継手及び定着

18-6 壁

19-1 定着及び継手

20-1 定着及び継手

21-1 独立基礎

21-2 杭基礎

21-3 べた基礎継手及び定着

22-6 壁

23-1 定着及び継手

24-1 定着及び継手

25-1 独立基礎

25-2 杭基礎

25-3 べた基礎継手及び定着

26-6 壁

27-1 定着及び継手

28-1 定着及び継手

29-1 独立基礎

29-2 杭基礎

29-3 べた基礎継手及び定着

30-6 壁

31-1 定着及び継手

32-1 定着及び継手

33-1 独立基礎

33-2 杭基礎

33-3 べた基礎継手及び定着

34-6 壁

35-1 定着及び継手

36-1 定着及び継手

37-1 独立基礎

37-2 杭基礎

37-3 べた基礎継手及び定着

38-6 壁

39-1 定着及び継手

40-1 定着及び継手

41-1 独立基礎

41-2 杭基礎

41-3 べた基礎継手及び定着

42-6 壁

43-1 定着及び継手

44-1 定着及び継手

45-1 独立基礎

45-2 杭基礎

45-3 べた基礎継手及び定着

46-6 壁

47-1 定着及び継手

48-1 定着及び継手

49-1 独立基礎

49-2 杭基礎

49-3 べた基礎継手及び定着

50-6 壁

51-1 定着及び継手

52-1 定着及び継手

53-1 独立基礎

53-2 杭基礎

53-3 べた基礎継手及び定着

54-6 壁

55-1 定着及び継手

56-1 定着及び継手

57-1 独立基礎

57-2 杭基礎

57-3 べた基礎継手及び定着

58-6 壁

59-1 定着及び継手

60-1 定着及び継手

61-1 独立基礎

61-2 杭基礎

61-3 べた基礎継手及び定着

62-6 壁

63-1 定着及び継手

64-1 定着及び継手

65-1 独立基礎

65-2 杭基礎

65-3 べた基礎継手及び定着

66-6 壁

67-1 定着及び継手

68-1 定着及び継手

69-1 独立基礎

69-2 杭基礎

69-3 べた基礎継手及び定着

70-6 壁

71-1 定着及び継手

72-1 定着及び継手

73-1 独立基礎

73-2 杭基礎

73-3 べた基礎継手及び定着

74-6 壁

75-1 定着及び継手

</

鉄 骨 工 作 標 準 図 (1) 2016年度版

8 4 溶 接 接 合

4-4
フ レ ア 溶 接

4-5
そ の 他

5-1
継 手 リ ス ト

5-2
小 梁 仕 口

ピン 接 合
A タイプ

剛 接 合
B タイプ

加工工程中及び現場運搬方向においてもアークストライク、ショートビートをしてはならない。

§ 5 継 手

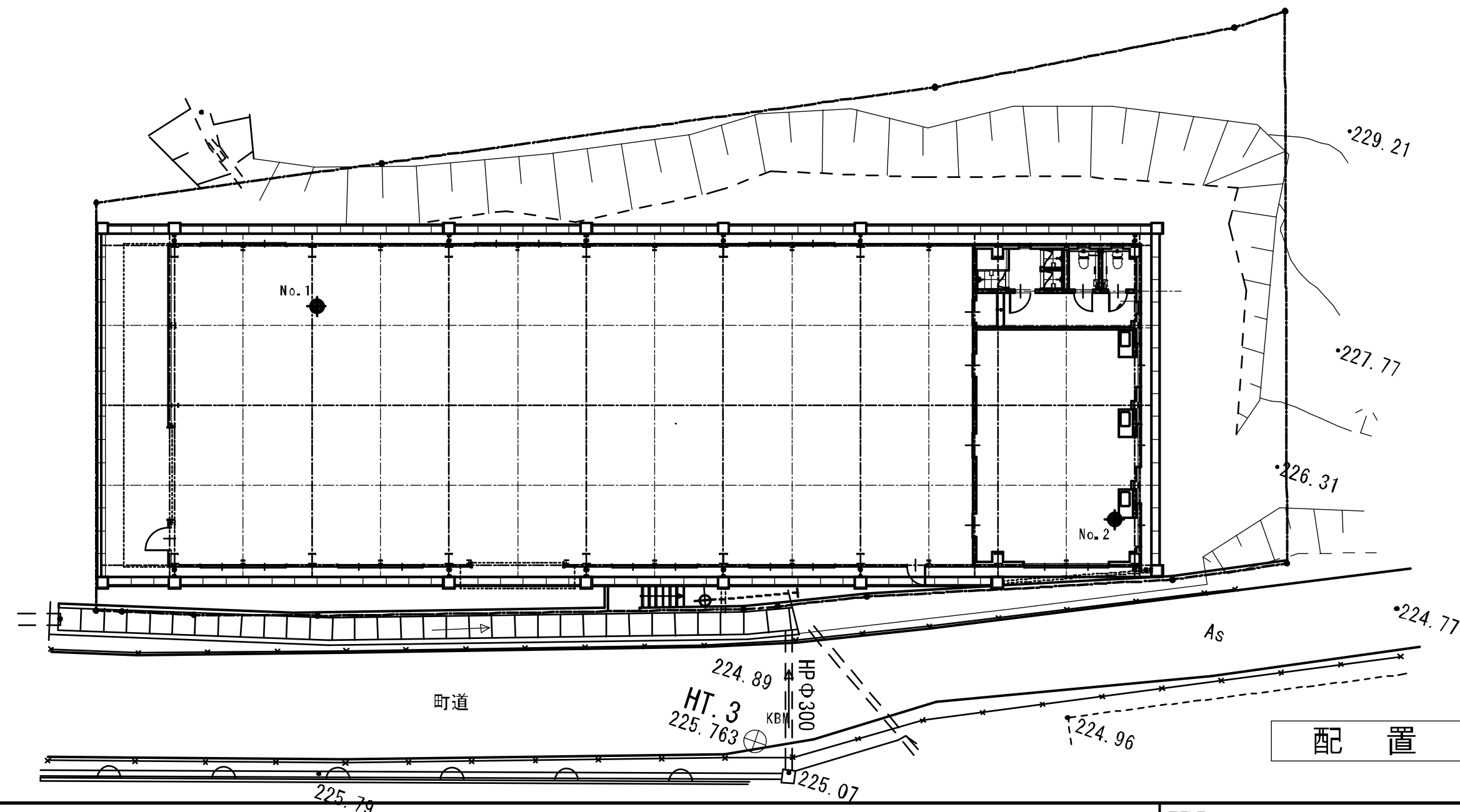
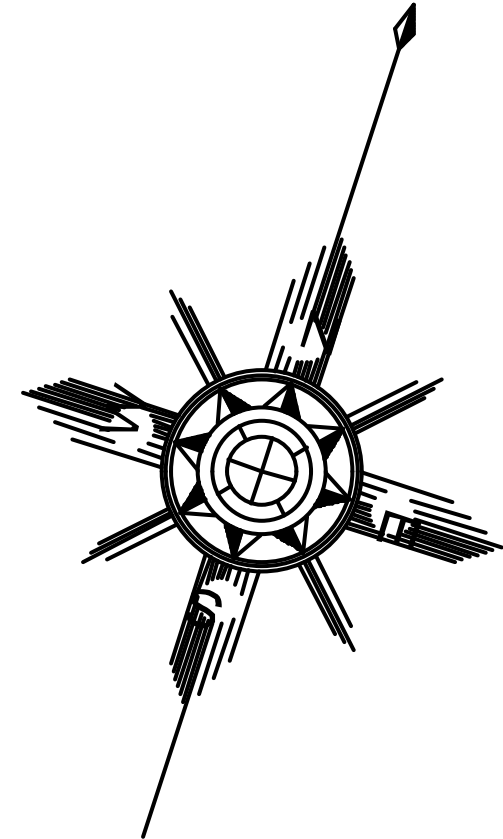
材 種	主 材	高力ボルト径	ボルト 締 本数	外 側 添 板 2E-	内 側 添 板 4E-	ボルト 締 本数	ウ ェ ブ 2E-	ピ ッ チ
H-	A x B x t ₁ x t ₂			t ₁ x a ₁ x l ₁	t ₂ x a ₂ x l ₂	t ₁ x a ₁ x l ₁	t ₂ x a ₂ x l ₂	
BH-	A x B x t ₁ x t ₂							
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x x	
H-	x x x			x x	x x	x x	x	

	TITLE	京丹波町映画等ロケ地倉庫新築	工事設計図	DATE	2017年3月	COA 有限会社 コア建築事務所			NO.	32
	NAME	鉄骨工作標準図（1）		SCALE	/	CHECK	PLAN	DRW	S-05	

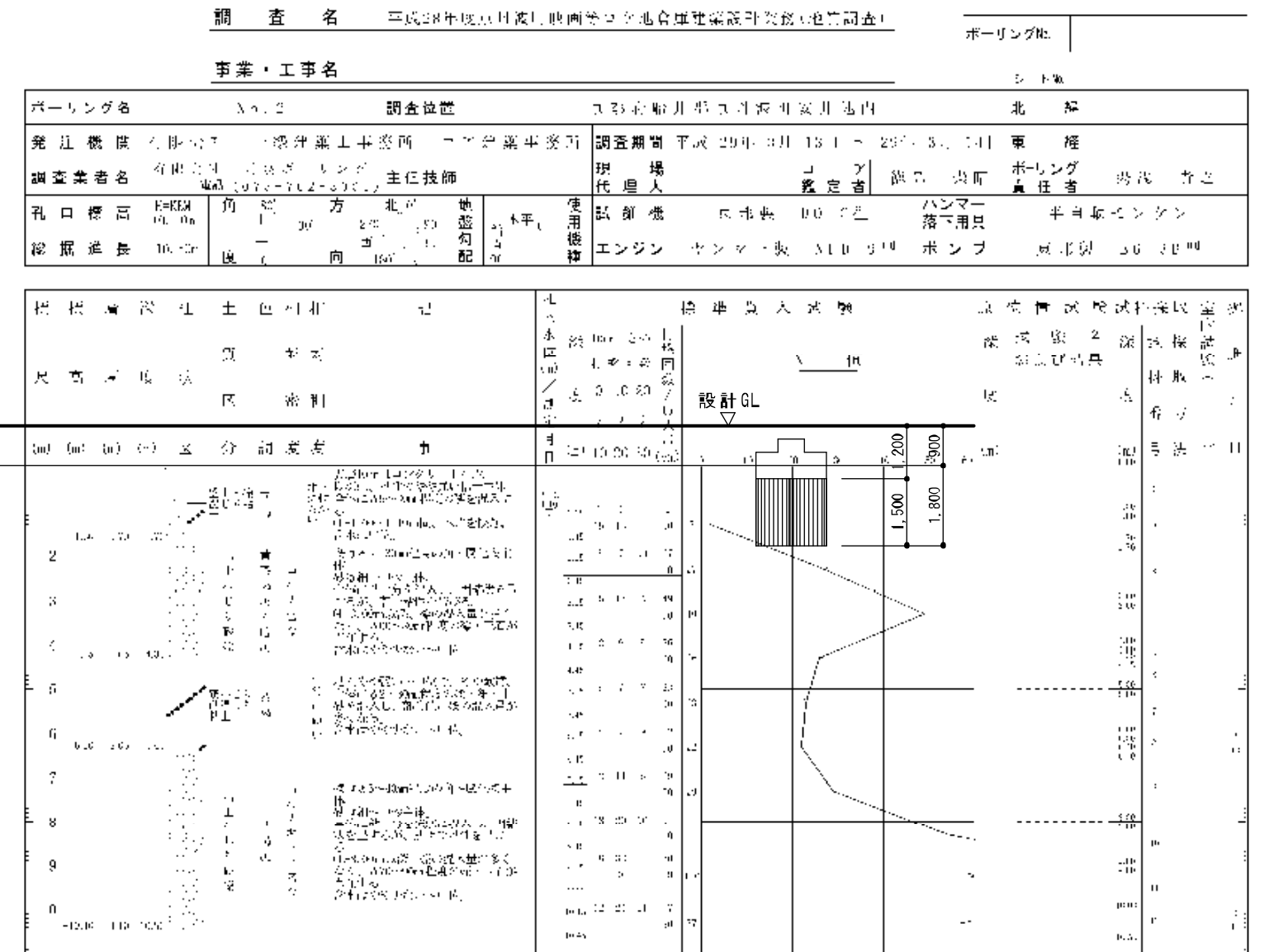
構造担当者（有）シー・アンド・シー事務所 前田 隆夫（一級建築士登録 第116581号・構造設計一級建築士 第7036号）

6. 工事場施工		ベースプレート												アンカーボルト		コンクリート柱型							フレームベース	フレームポスト間			最低寸法	J寸法
種別	採用	ベースバック 記号	材質	形状	寸法 (mm)							本数-呼び	基準強度 (N/mm ²)	寸法 (mm) Dx × Dy	配筋				設計基準強度 (N/mm ²)	F値	寸法 (mm)		寸法 (mm)			(mm)	(mm)	
					ax	ay	t	lx1	lx2	ly1	ly2				d	立上り筋 本数-呼び nx (本)	ny (本)	フープ筋			Wx	Wy	x	y	z			
H-F2 柱材F値2.3.5用		H1515-10F2	SN490B	(ト)	360	250	28	50	260	50	φ45	4-M27	490	530×420	10-D16	4	3	D10@100	21以上	A	310	200	210	100	50	550	135	
		H1717-11F2	SN490B	(ト)	380	260	28	50	280	50	φ45	4-M27	490	550×430	10-D16	4	3	D10@100	21以上	A	330	210	230	110	50	550	135	
		H2015-09F2	SN490B	(ト)	410	300	32	50	310	50	φ45	4-M27	490	580×470	10-D16	4	3	D10@100	21以上	A	360	250	260	150	50	550	135	
		H2020-12F2	SN490B	(ト)	410	300	32	50	310	50	φ45	4-M27	490	580×470	10-D16	4	3	D10@100	21以上	A	360	250	260	150	50	550	135	
		H2512-09F2	SN490B	(ト)	460	260	32	50	360	50	160	φ45	4-M27	490	660×460	10-D16	4	3	D13@150	21以上	A	410	210	310	110	50	550	135
		H2517-11F2	SN490B	(ト)	460	260	32	50	360	50	160	φ45	4-M27	490	660×460	10-D16	4	3	D13@150	21以上	A	410	210	310	110	50	550	135
		H2525-14F2	SN490B	(ト)	460	350	36	50	360	50	250	φ50	4-M33	490	660×550	12-D16	4	4	D13@150	21以上	A	410	300	310	200	50	600	135
		H3015-09F2	SN490B	(ト)	510	300	36	50	410	50	200	φ45	4-M30	490	680×490	10-D19	4	3	D13@150	21以上	H	298	250	198	150	50	600	135
		H3020-12F2	SN490B	(ト)	510	300	36	50	410	50	200	φ45	4-M30	490	680×490	10-D19	4	3	D13@150	21以上	H	298	250	198	150	50	600	135
		H3030-15F2	SN490B	(チ)	510	400	40	50	410	50	150	φ50	6-M33	490	690×590	14-D19	5	4	D13@150	21以上	H	292	350	192	250	50	600	135
		H3517-11F2	BT-HT440B-SP	(ト)	620	400	40	65	490	75	250	φ50	4-M33	490	770×540	12-D19	4	4	D13@125	21以上	H	370	300	270	200	50	600	135
		H3525-14F2	BT-HT440B-SP	(ト)	620	400	40	65	490	75	250	φ50	4-M33	490	770×540	12-D19	4	4	D13@125	21以上	H	370	300	270	200	50	600	135
		H3535-19F2	BT-HT440B-SP	(チ)	620	500	44	65	490	75	175	φ60	6-D38	390	780×640	14-D22	5	4	D13@125	21以上	H	370	400	270	300	50	750	180
		H4020-19F2	BT-HT440B-SP	(ト)	640	320	44	50	540	60	200	φ55	4-M36	490	820×490	12-D19	4	4	D13@125	21以上	H	416	250	316	150	50	600	150
		H4030-16F2	BT-HT440B-SP	(ト)	670	430	44	65	540	65	300	φ60	4-D38	390	830×590	12-D22	4	4	D13@125	21以上	H	416	350	316	250	50	750	180
		H4040-21F2	BT-HT440B-SP	(チ)	670	560	48	65	540	80	200	φ65	6-D41	390	830×700	16-D22	5	5	D13@125	21以上	H	416	450	316	350	50	800	190
		H4040-28F2	BT-HT440B-SP	(チ)	710	570	60	70	570	80	205	φ75	6-D51	390	930×790	22-D22	7	6	D13@100	21以上	H	438	490	308	360	65	900	230
		H4520-25F2	BT-HT440B-SP	(ト)	740	340	52	70	600	70	200	φ65	4-D41	390	890×490	12-D22	4	4	D13@100	21以上	H	474	250	374	150	50	800	190
	○	H4530-18F2	BT-HT440B-SP	(チ)	740	440	44	70	600	70	300	φ65	6-D41	390	890×600	14-D22	5	4	D13@100	21以上	H	474	350	374	250	50	800	190
H-F2Q 柱材F値2.3.5用		H5020-25F2	BT-HT440B-SP	(ト)	810	340	52	75	660	70	200	φ65	4-D41	390	950×490	12-D22	4	4	D13@100	21以上	H	536	250	436	150	50	800	190
		H5030-19F2	BT-HT440B-SP	(チ)	810	440	48	75	660	70	150	φ60	6-D38	390	950×590	14-D22	5	4	D13@100	21以上	H	536	350	436	250	50	750	180
		H5030-22F2	BT-HT440B-SP	(チ)	810	440	60	75	660	70	150	φ65	6-D41	390	950×600	14-D25	5	4	D13@100	21以上	H	536	350	436	250	50	800	190
		H6030-32F2	BT-HT440B-SP	(チ)	910	450	65	75	760	75	150	φ75	6-D51	390	1100×640	18-D25	6	5	D16@100	21以上	H	628	380	498	250	65	900	230
		H7030-28F2	BT-HT440B-SP	(チ)	1010	450	65	75	860	75	150	φ75	6-D51	390	1200×640	18-D25	6	5	D16@125	21以上	H	728	380	598	250	65	900	230
		H8030-26F2	BT-HT440B-SP	(チ)	1150	450	60	95	960	75	150	φ75	6-D51	390	1290×640	18-D25	6	5	D16@100	21以上	H	828	380	698	250	65	900	230
		H9030-28F2	BT-HT440B-SP	(チ)	1260	460	65	100	1060	80	150	φ75	6-D51	390	1400×640	24-D25	9	5	D16@90	24以上	H	928	380	798	250	65	900	230
		H2020-12F2Q	SN490B	(リ)	410	300	32	50	155	50	200	φ45	6-M27	490	590×480	10-D19	4	3	D10@100	21以上	A	360	250	260	150	50	550	135
		H2525-14F2Q	SN490B	(リ)	460	350	36	50	180	50	250	φ50	6-M33	490	660×550	12-D19	4	4	D13@125	21以上	A	410	300	310	200	50	600	135
		H3020-12F2Q	SN490B	(リ)	510	300	36	50	205	50	200	φ45	6-M30	490	680×490	12-D19	4	4	D13@125	21以上	H	298	250	198	150	50	600	135
		H3030-15F2Q	SN490B	(ヌ)	510	400	36	50	205	50	150	φ50	8-M33	490	690×590	14-D22	5	4	D13@125	21以上	H	292	350	192	250	50	600	135
		H3525-14F2Q	BT-HT440B-SP	(リ)	620	400	40	65	245	75	250	φ50	6-M33	490	770×540	14-D19	5	4	D13@125	21以上	H	370	300	270	200	50	600	135
		H3535-19F2Q	BT-HT440B-SP	(ヌ)	620	500	40	65	245	75	175	φ60	8-D38	390	780×640	18-D22	6	5	D13@125	21以上	H	370	400	270	300	50	750	180
		H4020-19F2Q	BT-HT440B-SP	(リ)	640	320	40	50	270	60	200	φ55	6-M36	490	830×490	12-D22	5	3	D13@125	21以上	H	416	250	316	150	50	650	150
		H4030-16F2Q	BT-HT440B-SP	(リ)	670	430	40	65	270	65	300	φ60	6-D38	390	830×590	14-D22	5	4	D13@125	21以上	H	416	350	316	250	50	750	180
		H4040-21F2Q	BT-HT440B-SP	(ヌ)	670	560	44	65	270	80	200	φ65	8-D41	390	830×700	20-D22	7	5	D13@125	21以上	H	416	450	316	350	50	800	190
		H4040-28F2Q	BT-HT440B-SP	(ヌ)	710	570	52	70	285	80	205	φ75	8-D51	390	910×770	22-D25	7	6	D13@100	21以上	H	438	490	308	360	65	950	230
		H4520-25F2Q	BT-HT440B-SP	(リ)	740	340	48	70	300	70	200	φ65	6-D41	390	890×490	14-D22	5	4	D13@100	21以上	H	474	250	374	150	50	800	190
		H4530-18F2Q	BT-HT440B-SP	(リ)	740	440	44	70	300	70	300	φ65	6-D41	390	890×600	12-D25	4	4	D13@100	21以上	H	474	350	374	250	50	800	190
	H5020-25F2Q	BT-HT440B-SP	(リ)	810	340	48	75	330	70	200	φ65	6-D41	390	950×490	14-D22	5	4	D13@100	21以上	H	536	250	436	150	50	800	190	
	H5030-19F2Q	BT-HT440B-SP	(ヌ)	810	440	48	75	330	70	150	φ60	8-D38	390	950×600	14-D25	5	4	D13@100	21以上	H	536	350						

ボーリング柱状図



ボーリング柱状図



京丹波町映画等ロケ地倉庫新築 工事設計図		DATE 2017年3月	COA 有限会社 コア建築事務所			NO. 37
ボーリング柱状図		SCALE /	CHECK	PLAN	DRW	S-10

テノコラム地業特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、テノコラム工法による地盤改良地業である。テノコラム工法は、スラリー状のセメント系固化材（以下、固化材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に攪拌混合し、固化材の固化反応により所要の強度を持つ改良柱体（以下、コラムと称す）を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター）および「建築工事標準仕様書・同解説 JASS4 杭・地業および基礎工事」（日本建築学会）による。

3. 特記事項

- (1) コラムの径、掘削深度（設計コラム長＋空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
- (2) コラムの設計基準強度はF_c＝ 900 kN/m²（ 0.9 N/mm²）とする。
- (3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
- (4) 本工事工法は、技術審査証明取得工法とする。又、事前にその証明書を監理者に提出し、承認を得ることとする。

4. 施工計画

- (1) 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したもので、テノコラム協会に所属する会員とする。
- (2) 施工計画書

工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- ① 工事件名及び工事場所

② コラム仕様及び数量
〔コラム径・掘削深度（設計コラム長＋空掘長）・本数
・設計基準強度〕

③ 工事期間及び工程

④ 工事の組織（建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名
及び責任者、各種作業の主たる従事者）

⑤ 施工手順
- ⑥ 施工機器

⑦ 固化材配合条件

⑧ 施工管理（立会い、管理項目、施工記録）

⑨ 品質検査

⑩ 安全衛生対策

⑪ 地盤概要（土質柱状図）

⑫ コラム伏図

⑬ 技術審査証明書（写）

5. 施工

- (1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
- (2) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。

a. 攪拌混合装置をコラム心に合わせる。

b. 固化材液を吐出せずに、空掘り部を所定の深度まで掘進する。

c. 固化材液を吐出しながら掘進・攪拌混合する。

d. 注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の繰り返しを行う。

e. 先端繰り返し工程が終了したら、攪拌軸を逆回転し引上げ攪拌混合する。
- (3) 設計図書に示された支持地盤に着底する長さを実施コラム長という。
- (4) 本工事により排出される発生残土は場内処分とする。

6. 施工機械

- (1) 共回り現象を防止する機構を有し、固化材と原位置土を確実に攪拌混合できる攪拌装置を用いること。
- (2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
- (3) 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- (4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

- (1) 固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。
- (2) 配合強度

変動係数を25%と想定し、9項に規定する抜き取り箇所数N、合格確率 80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4～6	7～8	9
+0381	2,163	1,918	1,815	1,719	1,651	1,594

X_f＝+0381+0007F_c 〔+0381：調り増し係数、X_f：配合強度〕

- (3) 室内配合試験
- 固化材液の配合（W／C）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。

8. 施工管理

- (1) 施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。

- ① 形状・寸法

② 固化材

③ 攪拌混合度

④ 支持地盤
- ：鉛直性

：材料計量

：攪拌混合回数

：仕事量
- 改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する

水、固化材の重量

スーパースystemにて施工管理を行い、記録する

スーパースystemにて施工管理を行い、記録する
- 事前にコラム心にマークを設ける

マッドバランス等

スーパースystemにて施工管理を行い、記録する

スーパースystemにて施工管理を行い、記録する
- 深度計で計測し記録する

マッドバランス等

スーパースystemにて施工管理を行い、記録する

スーパースystemにて施工管理を行い、記録する
- 攪拌装置の形状・寸法を記録する

マッドバランス等

スーパースystemにて施工管理を行い、記録する

スーパースystemにて施工管理を行い、記録する
- （着底判定仕事量は、先行コラムの施工状況により、監督員と協議して決定する）

- (2) コラムの芯ズレ
- コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員（監理者）と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると判断した場合、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。
- (3) 施工の立会い
- 建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9. 品質検査

- (1) 検査対象群、検査対象層及び調査箇所数

- ① 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。
- ② 検査対象層は 盛土、 であり、設計対象層を 盛土 とする。
ただし、設計対象層以外の平均強度が設計対象層の平均強度より小さい場合は、最も小さい平均強度の層を設計対象層とする。

- ③ 調査箇所数
- 頭部コア 100コラムを1単位とし、1単位毎に1ヶ所
- 深部コア 100コラムを1単位とし、1単位毎に1ヶ所

- (2) コア採取率による調査
- コアボーリング調査の内、検査対象群に1ヶ所の割合でコア採取率を調査する。
- コア採取率が、全長に対して粘性土で90%、砂質土で95%以上、深さ1m毎に粘性土85%以上、砂質土で90%以上あることを確認する。
- (3) 可否の判定
- ① 設計対象層についての抜取箇所数をNとする。1ヶ所あたりは3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
- ② 一軸圧縮試験は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
- ③ 検査手法は品質のバラツキを想定する場合の検査手法A1による。
- ④ 検査手法A1による品質検査
- 可否の判定は検査対象層におけるNヶ所（抜取箇所数）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。

$$\overline{XN} \geq XL = F_c + k_a \cdot +03C3$$

$$XN:$$
 Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値(N mm²、kN/m²)

$$XL:$$
 合格判定値(N mm²、kN/m²)

$$F_c:$$
 設計基準強度(N/mm²、kN/m²)

$$k_a:$$
 合格判定係数

$$+03C3:$$
 標準偏差(N/mm²、kN/m²)

$$= \sqrt{v} \cdot q_{ud}$$

$$\left(\begin{array}{l} v: \text{変動係数、品質確認書により想定する} \\ q_{ud}: \text{想定した平均一軸圧縮強さ(N/mm}^2\text{、kN/m}^2\text{)} \end{array} \right)$$

抜き取りヶ所数N	1	2	3	4～6	7～8	9
合格判定係数 k _a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10. 報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に3部提出する。

- ① コラムの伏図及び番号

② コラムの施工日

③ コラムの径及び実施コラム長

④ 掘削深度

⑤ 攪拌混合回数
- ⑥ 仕事量

⑦ 固化材液の配合と固化材の使用量

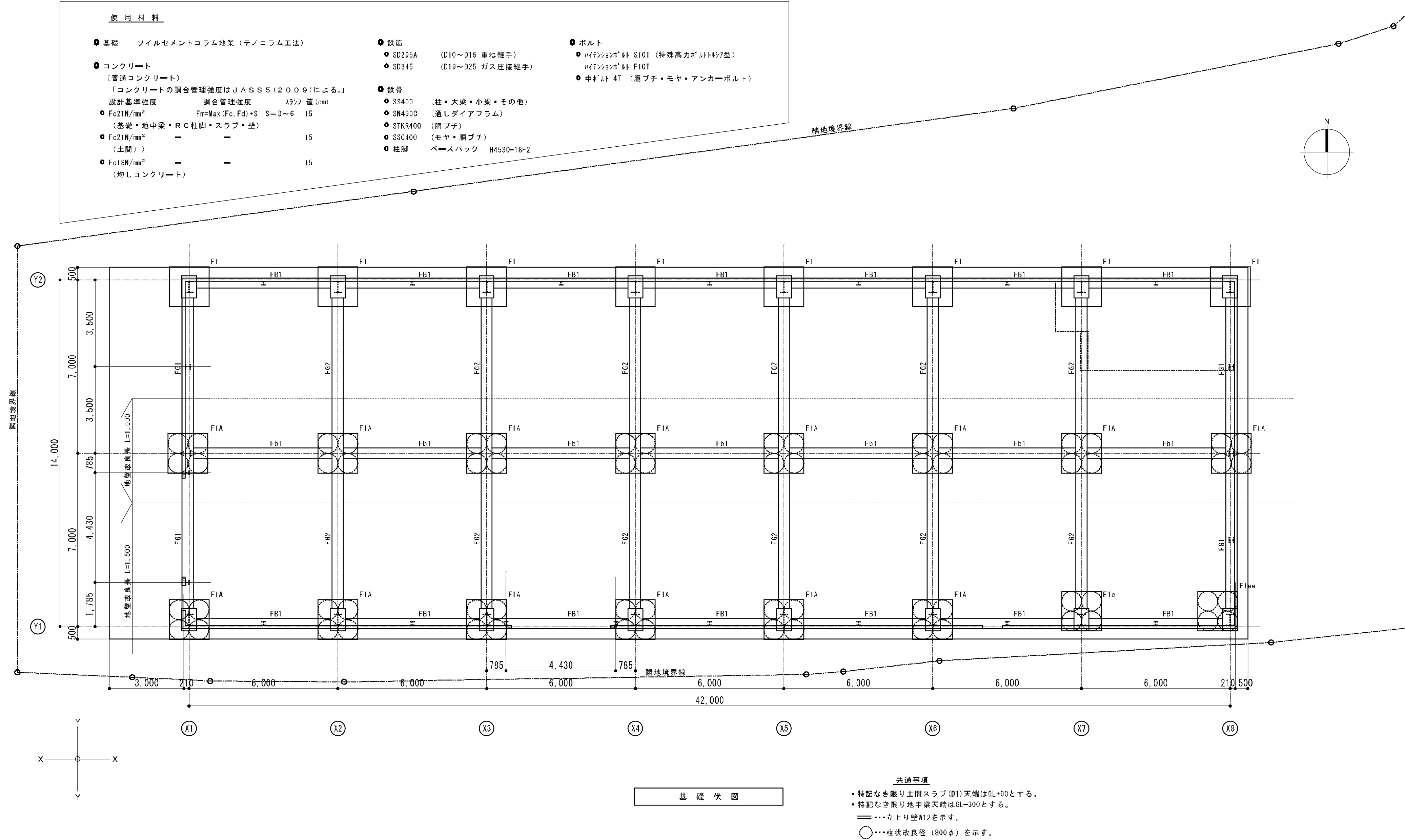
⑧ コア供試体の一軸圧縮強度試験結果及び

ボーリングコアを用いたコア採取率

⑨ 可否判定結果

11. その他

	TITLE	京丹波町映画等ロケ地倉庫新築	工事設計図	DATE	COA 株式会社 コア建築事務所			NO.	38
	NAME	テノコラム地業特記仕様書		SCALE	/	CHECK	PLAN	DRW	S-11

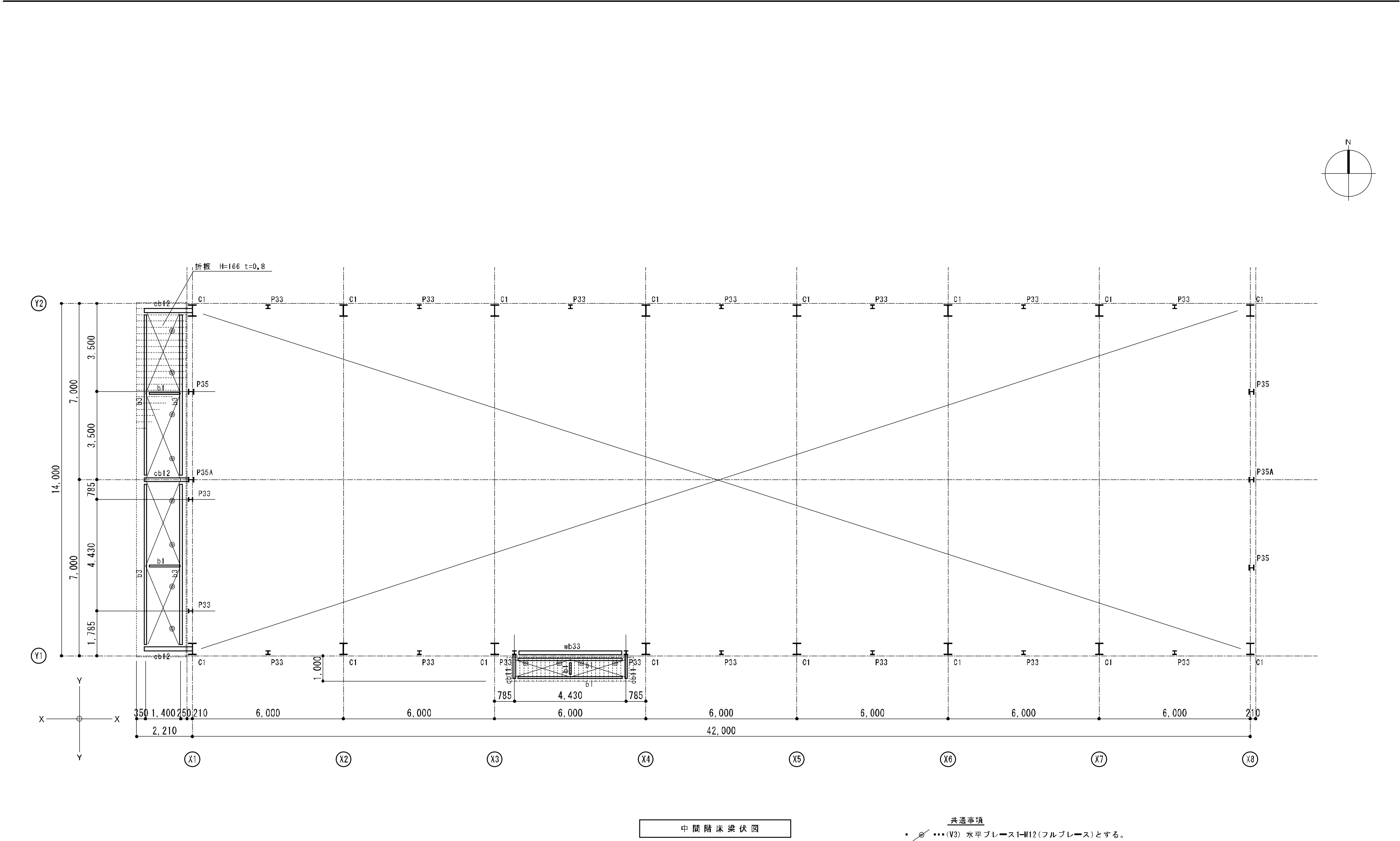


基礎伏図

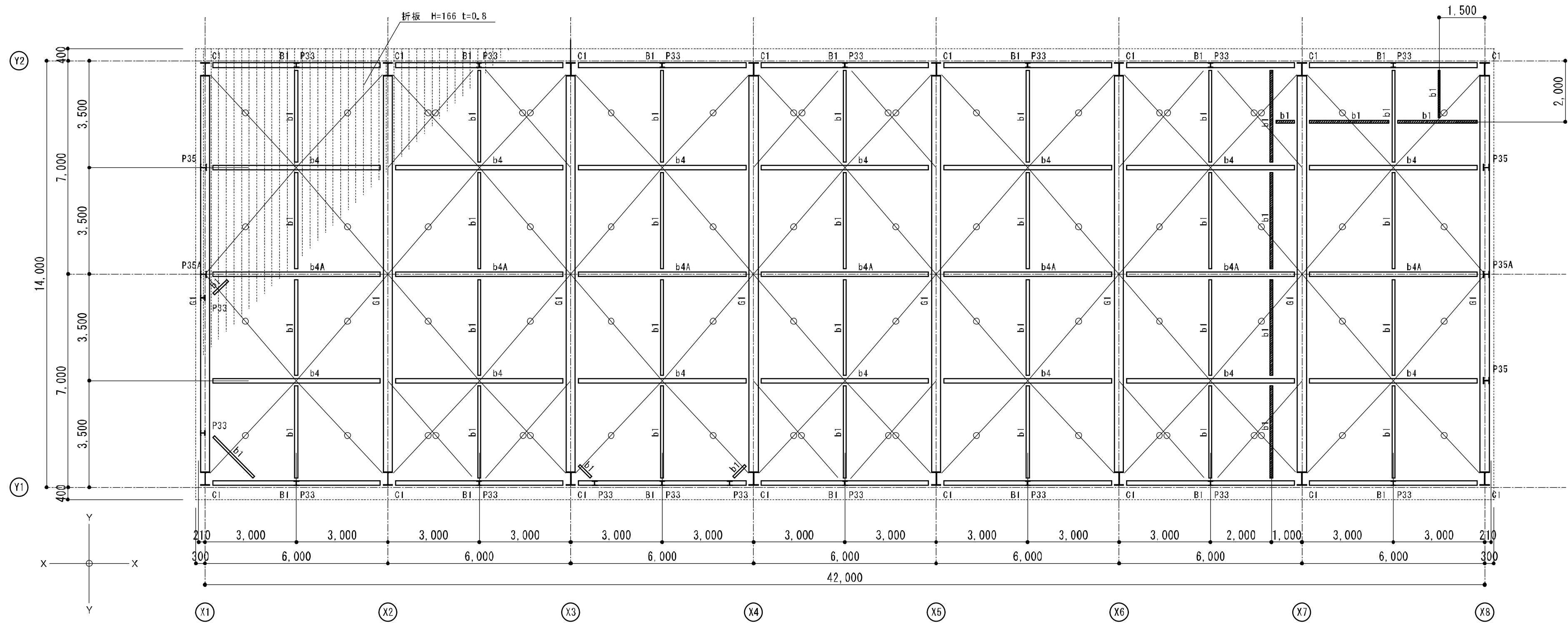
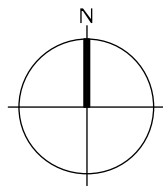
共通事項

- ・特記なき限り土間スラブ(D1)天端はGL+90とする。
- ・特記なき限り地中梁天端はGL-300とする。
- ... 立上り壁W12を示す。
- ... 柱状改良径（800φ）を示す。

	TITLE	京丹波町映画等ロケ地倉庫新築	工事設計図	DATE	COA 有限会社 コア建築事務所			NO.	39
	NAME	基礎・1階床梁伏図		SCALE	1/100	CHECK	PLAN	DRW	S-12



	TITLE	京丹波町映画等ロケ地倉庫新築	工事設計図	DATE	2017年3月	COA 有限会社 コア建築事務所		NO.	40
	NAME	中間階床梁伏図		SCALE	1/100	CHECK	PLAN	DRW	S-13

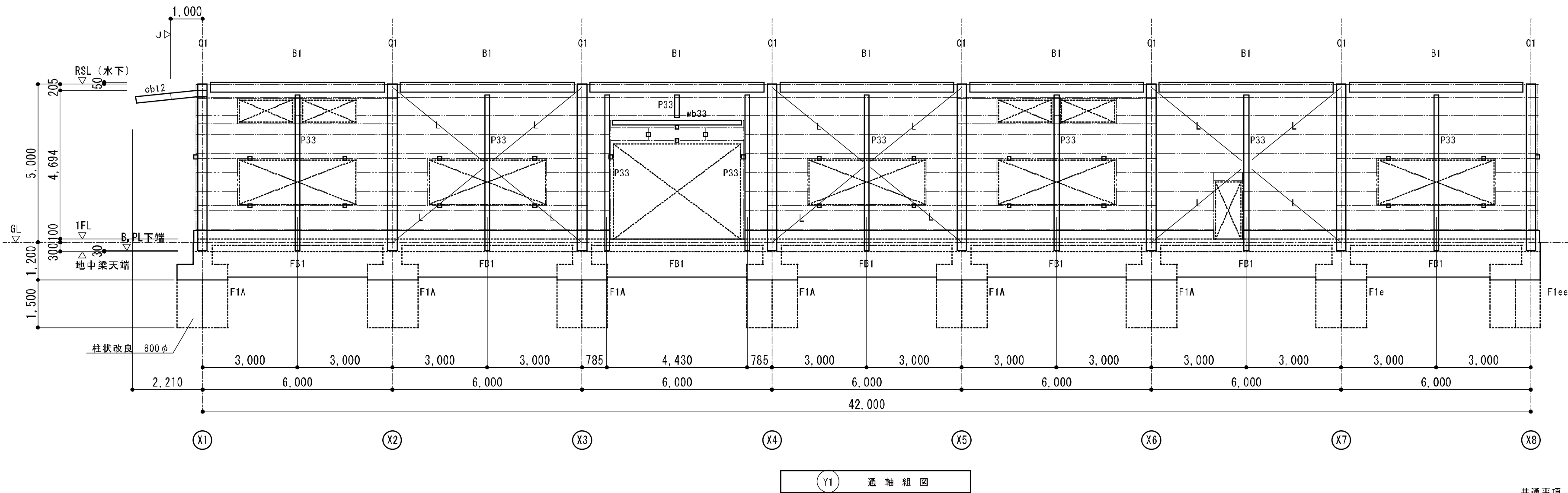
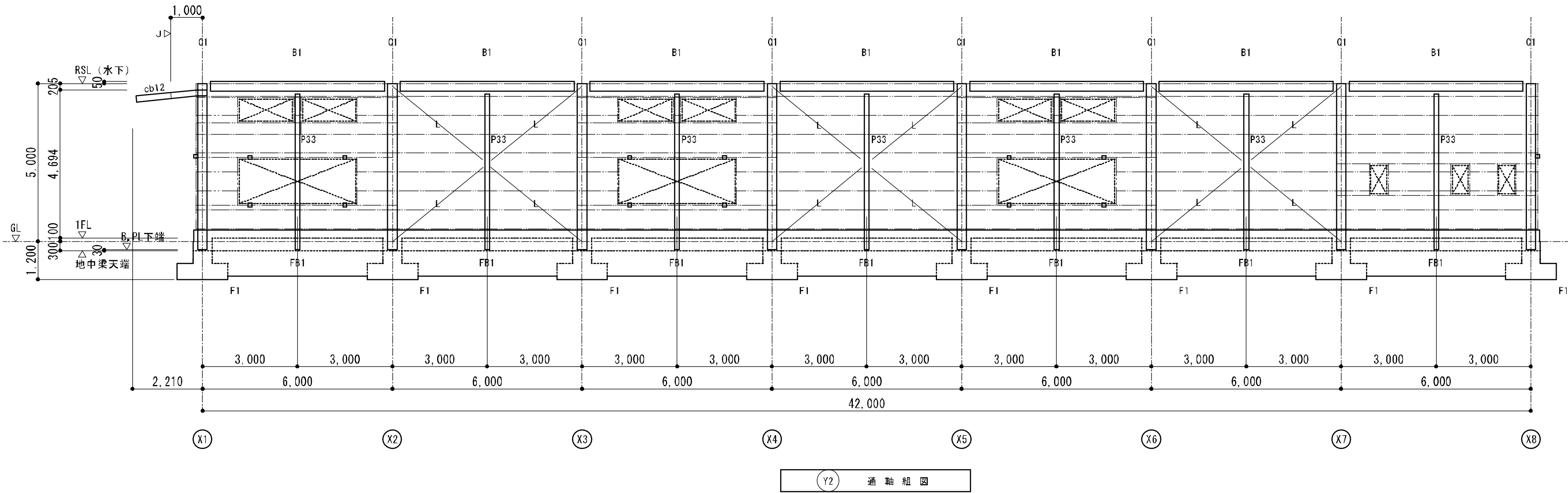


R 階 床 梁 伏 図

共通事項

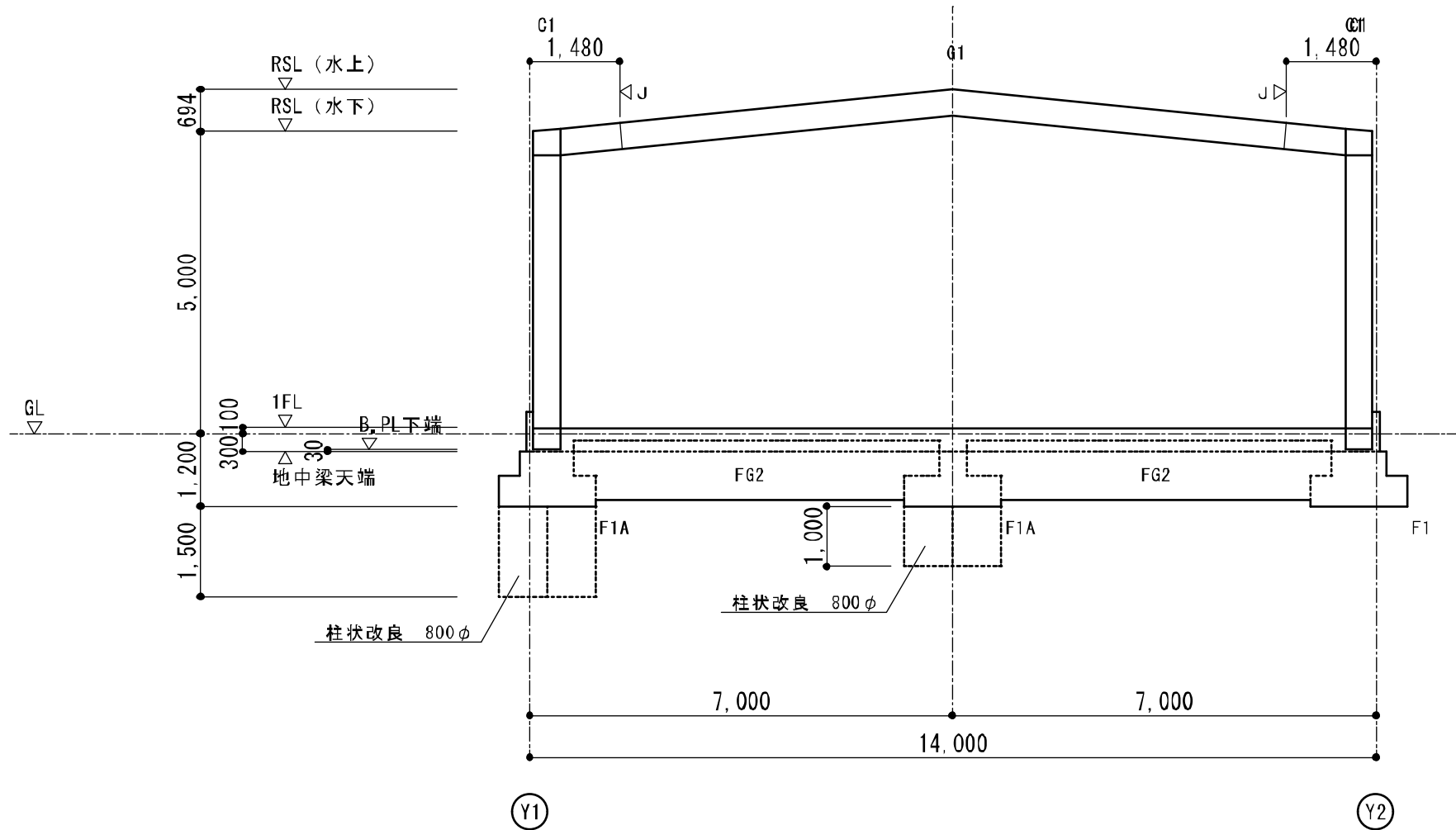
- ⊗ (V2) 水平ブレース1-M20(フルブレース)とする。
小梁 B1, b4, b4A は大梁天端 G1+50 とする。
- ⊗ 小梁b4の下端にb1の下端を合わせる小梁b1を示す。

	TITLE	京丹波町映画等ロケ地倉庫新築	工事設計図	DATE	COA 有限会社 コア建築事務所			NO.	41
	NAME	R階床梁伏図		SCALE	1/100	CHECK	PLAN	DRW	S-14

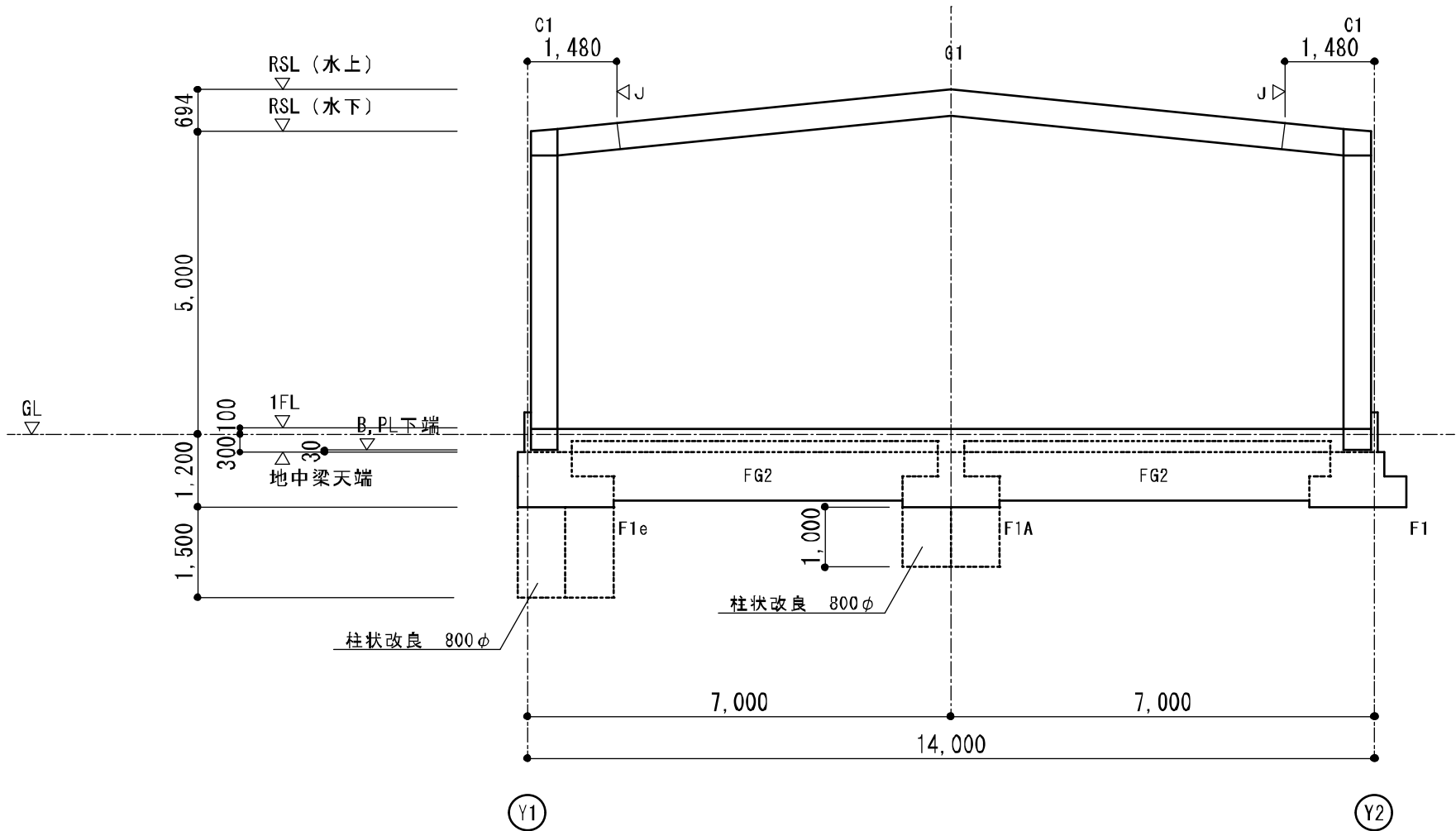


- 共通事項
- ◁ J ■ ■ ■ 梁ジョイント位置を示す。
 - 胴縁 C-100×50×20×2.3@600
 - 100×100×3.2
 - ⋯ (V1) 壁フレース L=75×75×9 を示す。
 - ⋯ 立上り壁はW12とする。

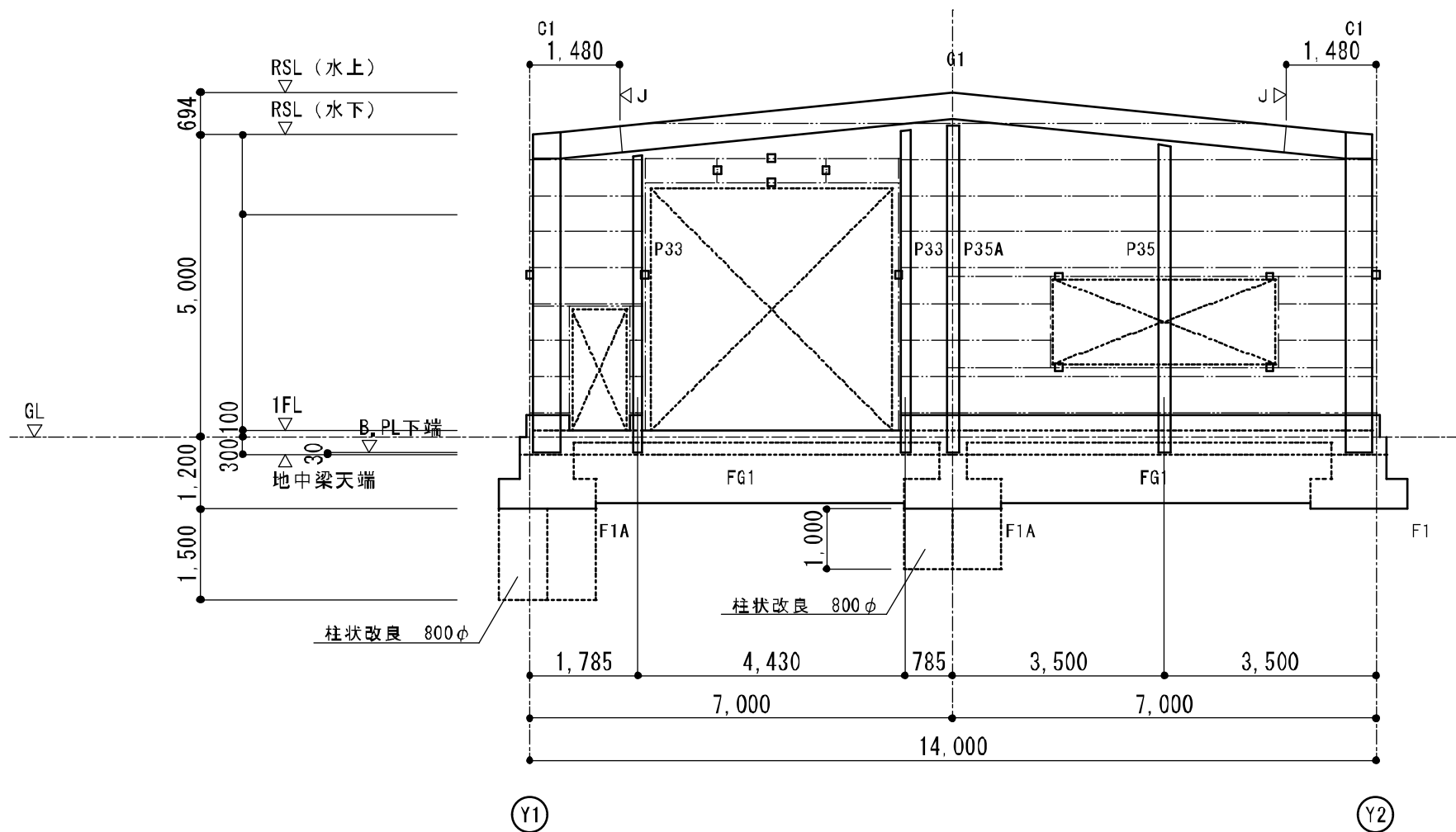
	TITLE	京丹波町映画等ロケ地倉庫新築 工事設計図	DATE	COA 有限会社 コア建築事務所		NO.	42
	NAME	軸組図 (1)	SCALE	1/100	CHECK	PLAN	DRW



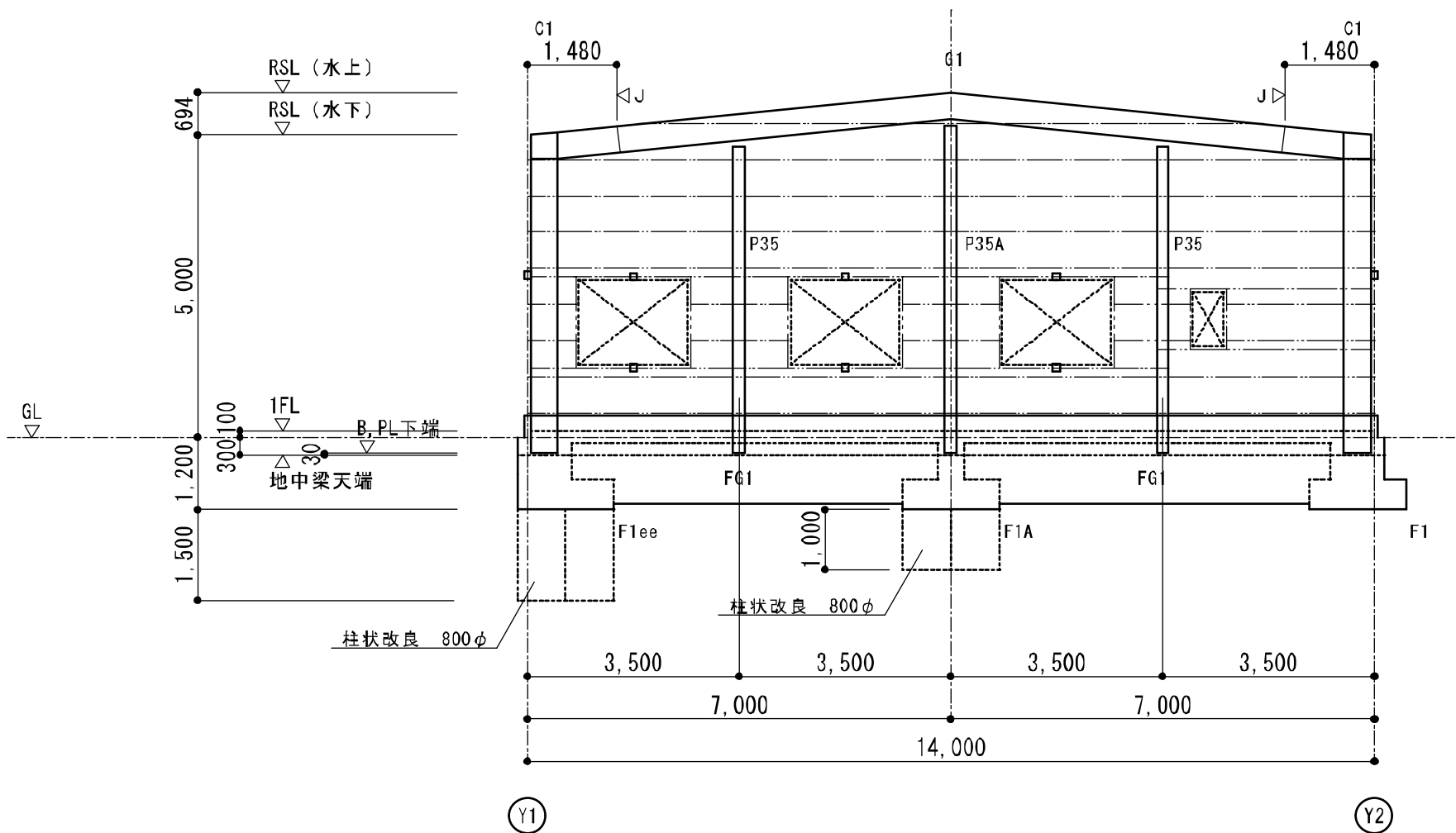
(X2) ~ (X6) 通軸組図



(X7) 通軸組図



(X1) 通軸組図



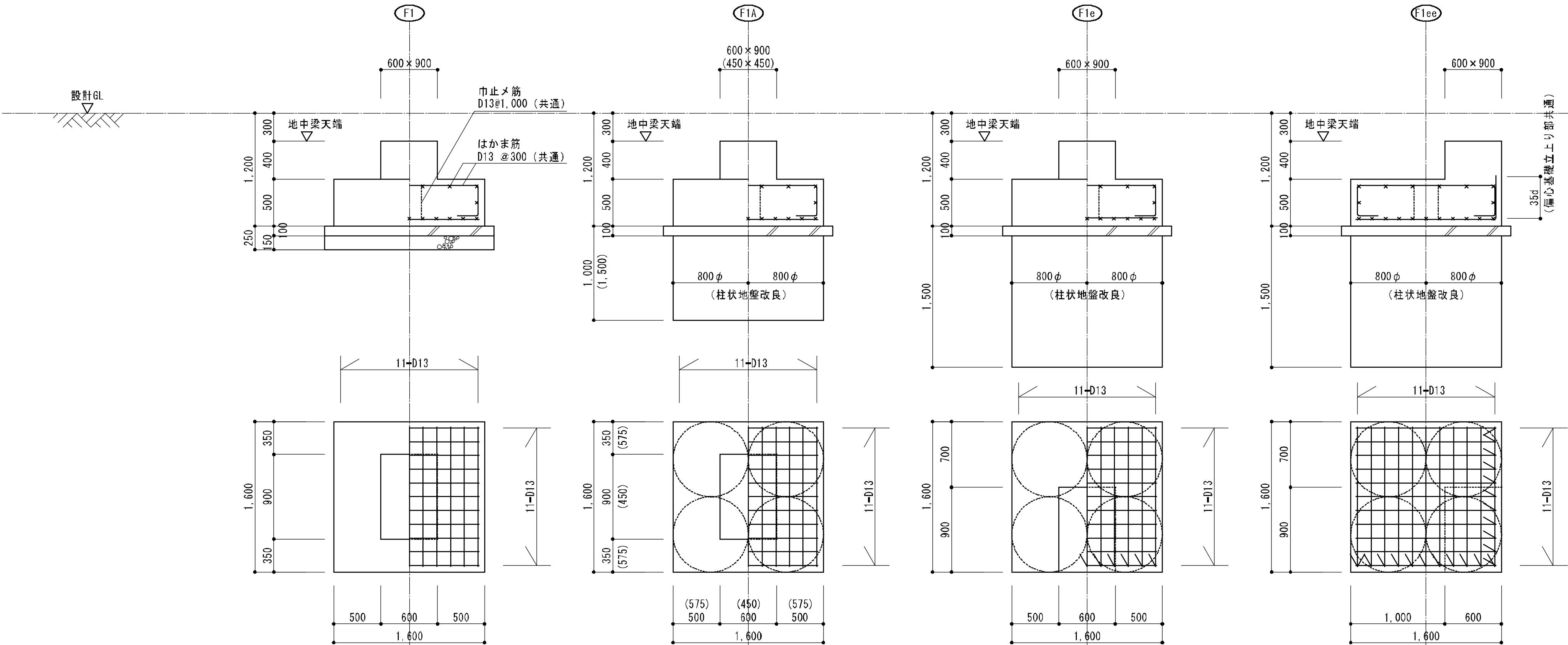
(X8) 通軸組図

- 共通事項
- △ J . . . 梁ジョイント位置を示す。
 - . . . 胴縁C-100×50×20×3.2@600
 - 中 . . . □=100×100×3.2
 - . . . 立上り壁はW12とする。

	TITLE	京丹波町映画等ロケ地倉庫新築 工事設計図	DATE	COA 有限会社 コア建築事務所			NO.	43
	NAME	軸組図 (2)	SCALE	1/100	CHECK	PLAN	DRW	S-16

基礎リスト

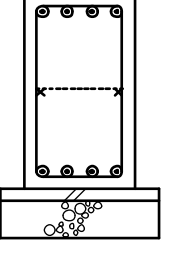
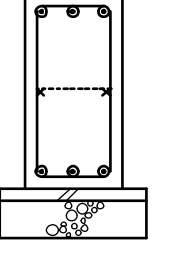
設計地耐力 $vqa=200\text{kN/m}^2$ (長期、基礎底)



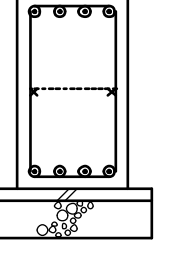
設計地耐力 (基礎底)	$vqa=200\text{kN/m}^2$ (長期)
地盤改良工法	深層混合攪拌工法 (ソイルセメントコラム地業 テノコラム工法)
改良径	800φ
改良長	L=1.50m、1.00m (改良底 GL-2.70m、2.20m)
施工	工事に先立ち施工計画書を作成し監理者の承認を得ること。
その他	※本施工に先立ち試験施工を実施し攪拌機の電流値・トルク値により支持層 (砂礫層) の確認を行うか、試験掘により支持層の確認を行うなどの方法により改良深さの最終決定をし改良体の先端を確実に支持層に到達させること。 セメント系固材液の配合は、施工前に現地の土を採取し、室内配合試験を行なった上で決定すること。

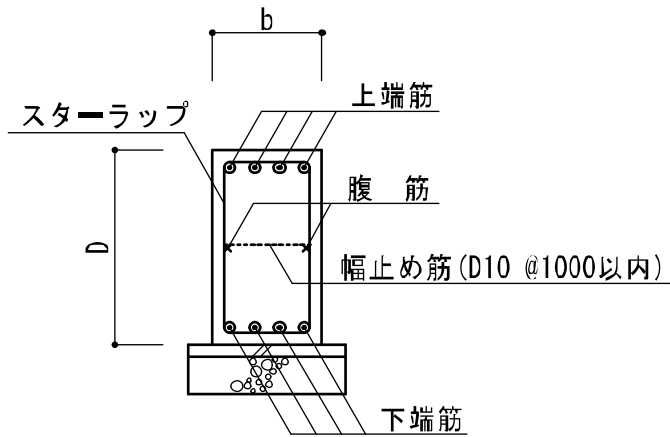
	TITLE	京丹波町映画等ロケ地倉庫新築	工事設計図	DATE	2017年3月	COA	有限会社 コア建築事務所	NO.	44
	NAME	基礎リスト		SCALE	1/30	CHECK	PLAN	DRW	S-17

地 中 梁 リ ス ト

	FG 1、2	FB 1	
	全 断 面	全 断 面	
GL ▽ (共通) 300 1階 150 (共通)			
b × D	4 5 0 × 8 0 0	4 0 0 × 8 0 0	
上 端 筋	4 - D 2 5	3 - D 2 5	
下 端 筋	4 - D 2 5	3 - D 2 5	
腹 筋	2 - D 1 3	2 - D 1 3	
スターラップ	2 - D 1 3 @ 2 0 0	2 - D 1 3 @ 2 0 0	

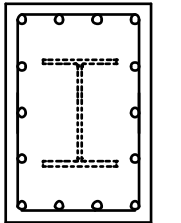
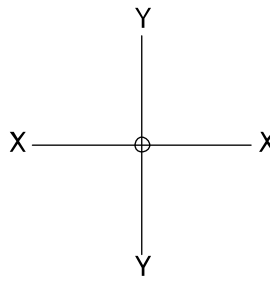
地 中 小 梁 リ ス ト

	F b 1	
	全 断 面	
GL ▽ (共通) 300 1階 150 (共通)		
b × D	4 5 0 × 8 0 0	
上 端 筋	4 - D 2 5	
下 端 筋	4 - D 2 5	
腹 筋	2 - D 1 3	
スターラップ	2 - D 1 3 @ 2 0 0	



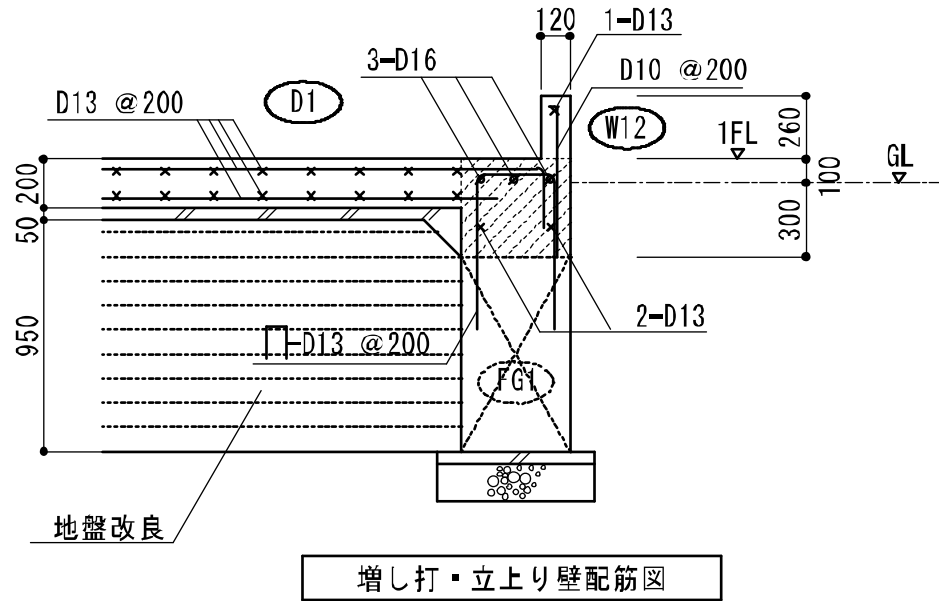
共通事項

R C 柱 脚 リ ス ト

	C 1	
	全 断 面	
断 面		
B × D	6 0 0 × 9 0 0	
主 筋	1 4 - D 2 2	
フ ー プ	□ - D 1 3 @ 1 0 0	
柱 脚	H 4 5 3 0 - 1 8 F 2	

床 版 リ ス ト

符 号	厚 さ	位 置	短 辺 方 向	長 辺 方 向	備 考
D1	200	上 端 筋	D13 @200	D13 @200	土 間
		下 端 筋	D13 @200	D13 @200	

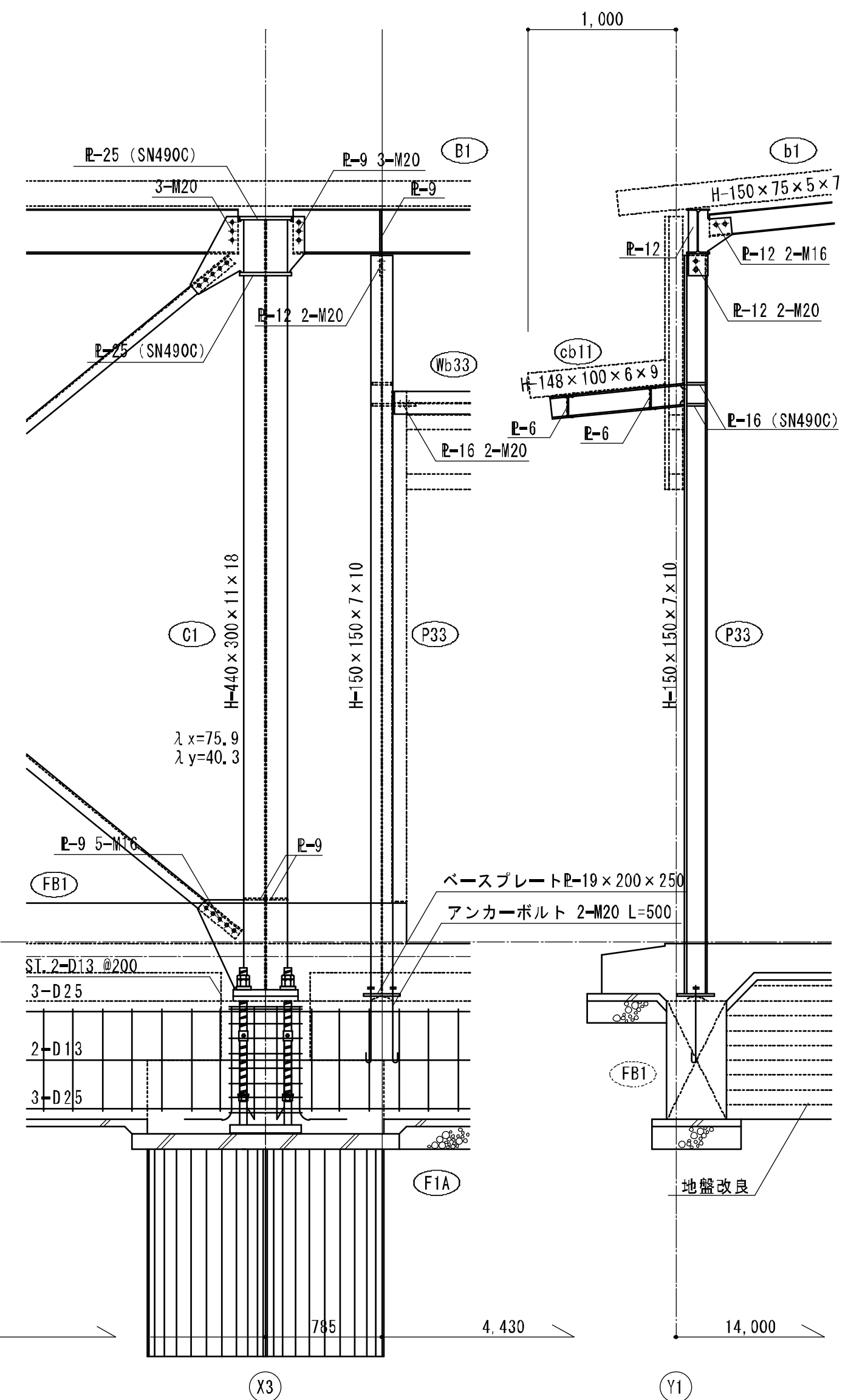
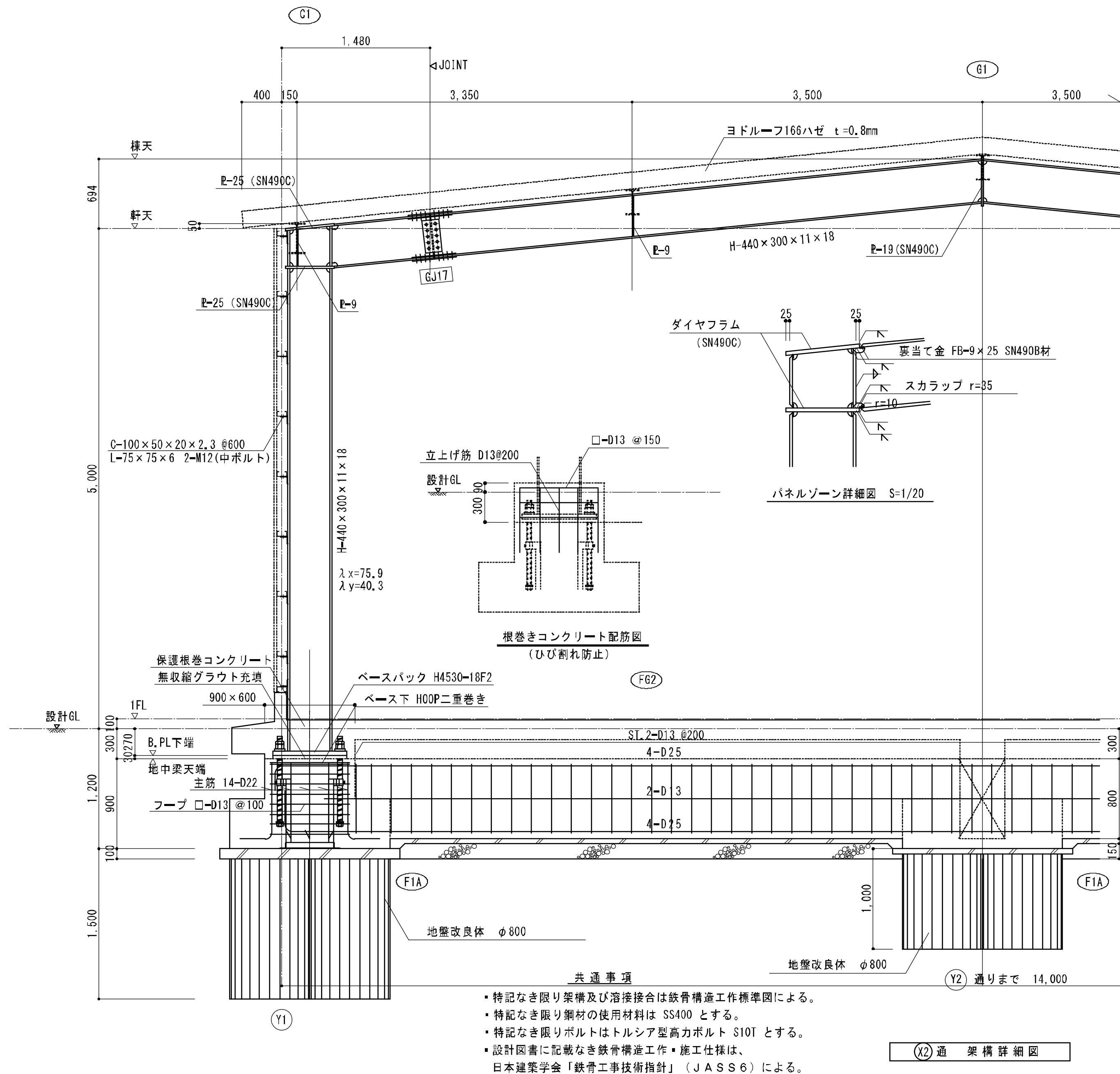


地盤改良仕様

- 設計地耐力（長期）：30KN/㎡
- 地盤改良工法：セメント系混合攪拌安定処理工法
- 地盤改良範囲：建物内部
- 固化剤添加量：80kg/m3
- その他：着工前に原土による室内配合試験を実施し、固化剤配合量確認すること。
：地盤改良後、載荷試験、一軸圧縮試験を行い地耐力の確認を行うこと。
：転圧は50cm毎に分けて行うこと。

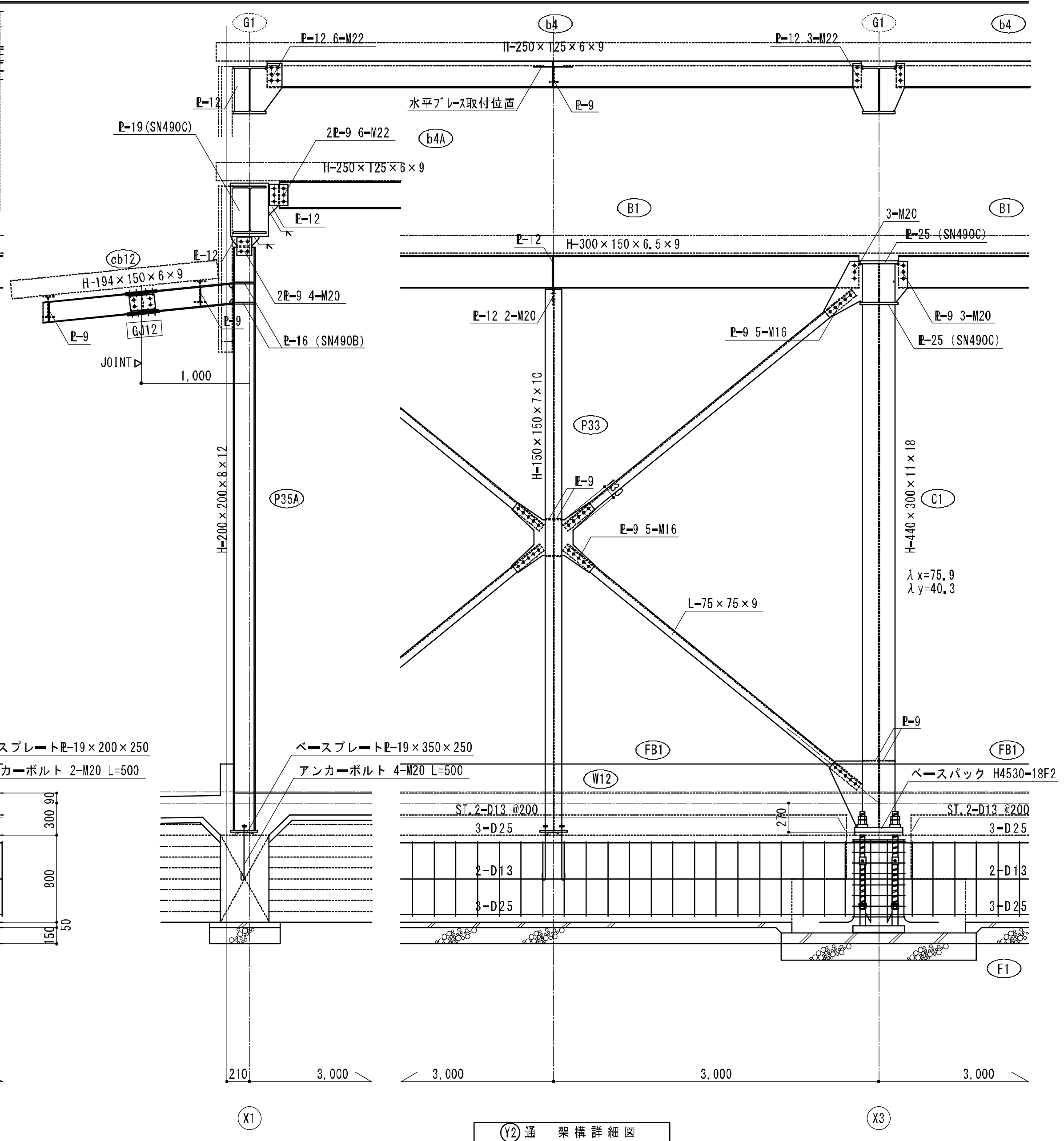
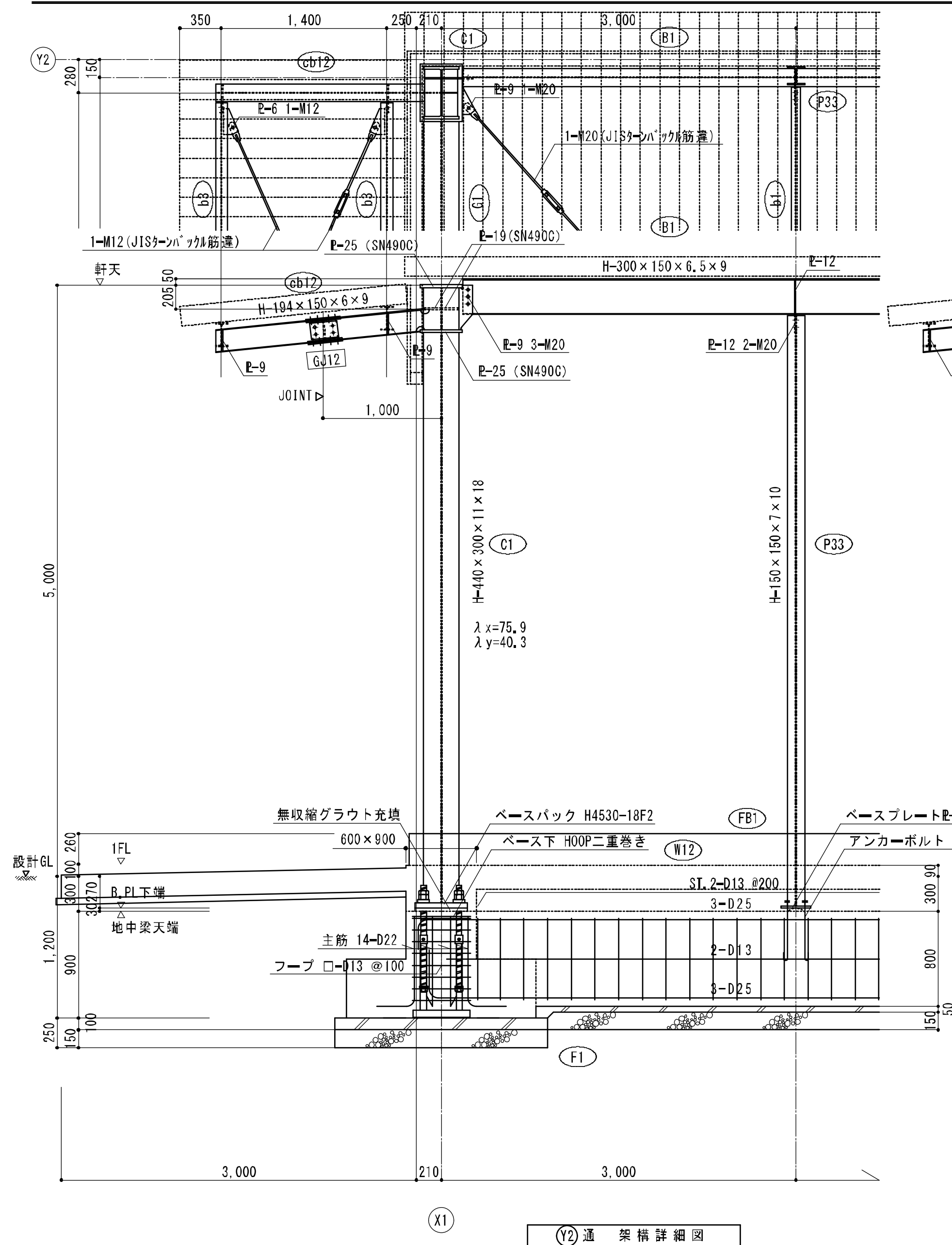
	TITLE	京丹波町映画等ロケ地倉庫新築 工事設計図	DATE	COA 有限会社 コア建築事務所			NO.	45
	NAME	鉄筋コンクリート部材リスト	SCALE	1/30	CHECK	PLAN	DRW	S-18

柱 リ ス ト		梁 リ ス ト		小 梁 リ ス ト	
鋼材はSS400とする。 ダイヤフラムはSN490C材とする。		鋼材はSS400とする。 継手はH形鋼継手リスト参照。		鋼材はSS400とする。 継手はH形鋼継手リスト参照。	



- 共通事項
- ・特記なき限り架構及び溶接接合は鉄骨構造工作標準図による。
 - ・特記なき限り鋼材の使用材料は SS400 とする。
 - ・特記なき限りボルトはトルシア型高力ボルト S10T とする。
 - ・設計図書に記載なき鉄骨構造工作・施工仕様は、日本建築学会「鉄骨工事技術指針」(JASS6)による。

	TITLE	京丹波町映画等ロケ地倉庫新築	工事設計図	DATE	有限会社 COA コア建築事務所			NO. 47
	NAME	架構詳細図（１）		SCALE	1/30	CHECK	PLAN	DRW



	TITLE	京丹波町映画等口ケ地倉庫新築	工事設計図	DATE	COA 有限会社 コア建築事務所			NO.	48
	NAME	架構詳細図（２）		SCALE	1/30	CHECK	PLAN	DRW	S-21

